

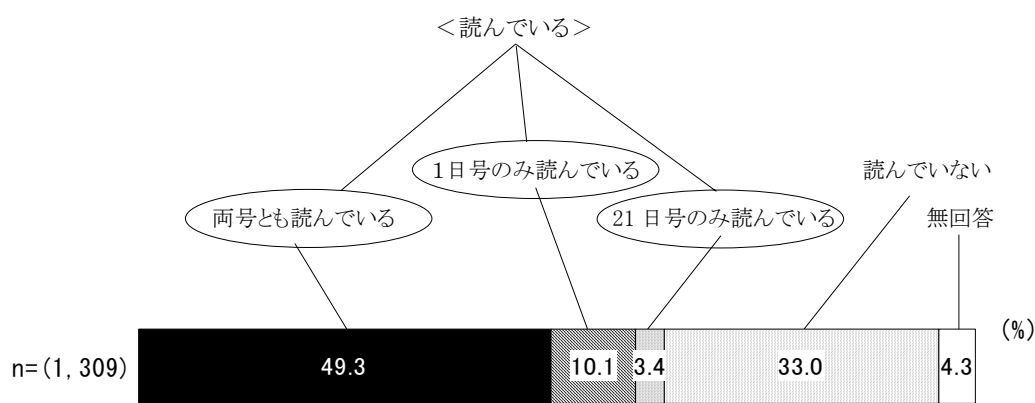
7 広報活動について

7-1 「かわさき市政だより」を読んだ経験

◎ <読んでいる>は62.8%

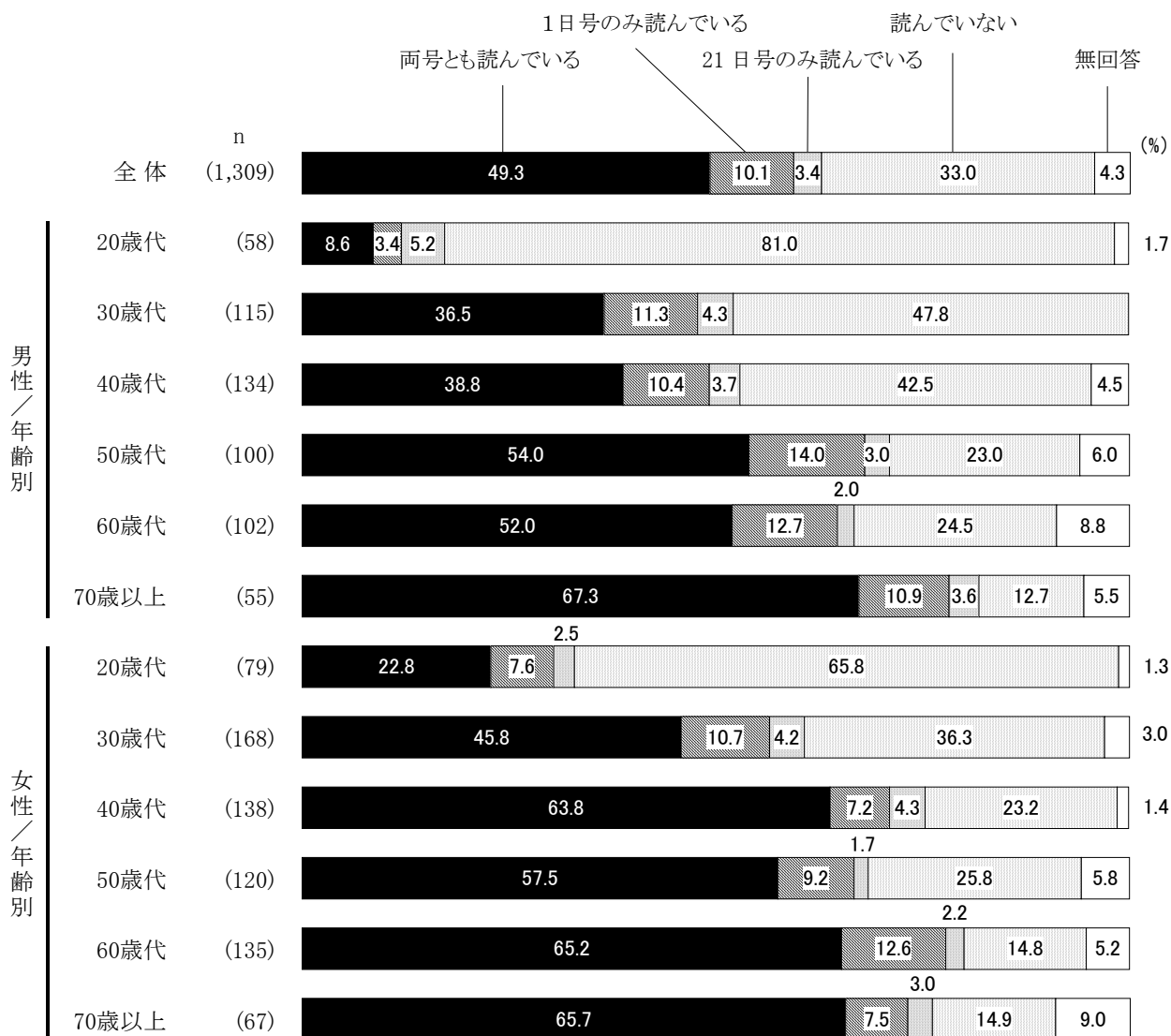
問 23 「かわさき市政だより」は毎月1日（町内会・自治会等を通じて配布）と21日（新聞折込み）に発行していますが、「かわさき市政だより」を読んだことがありますか。
（○は1つ）

図表 7-1 「かわさき市政だより」を読んだ経験



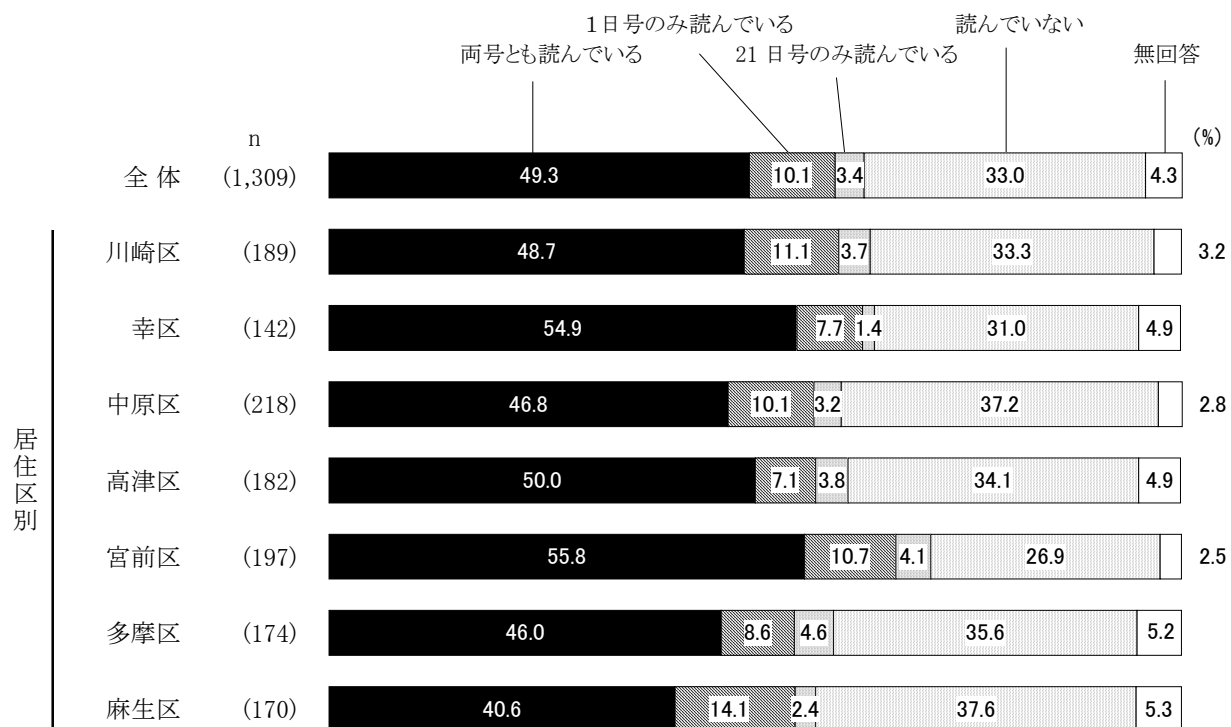
『かわさき市政だより』を「両号とも読んでいる」は49.3%、「1日号のみ読んでいる」は10.1%、「21日号のみ読んでいる」は3.4%で、あわせた<読んでいる>は62.8%となっている。一方、「読んでいない」は33.0%となっている。（図表7-1）

図表 7-2 「かわさき市政だより」を読んだ経験 (性／年齢別)



性／年齢別では、男女ともに＜読んでいる＞は、男性では、70歳以上が8割台前半で最も多く、20歳代が1割台後半で最も少なくなっている。女性では、60歳代が8割で最も多く、20歳代が3割台前半で最も少なくなっている。(図表7-2)

図表 7-3 「かわさき市政だより」を読んだ経験 (居住区別)



居住区別では、＜読んでいる＞は、宮前区が約7割で最も多くなっている。(図表7-3)

7-2 「かわさき市政だより」で読んでいる記事

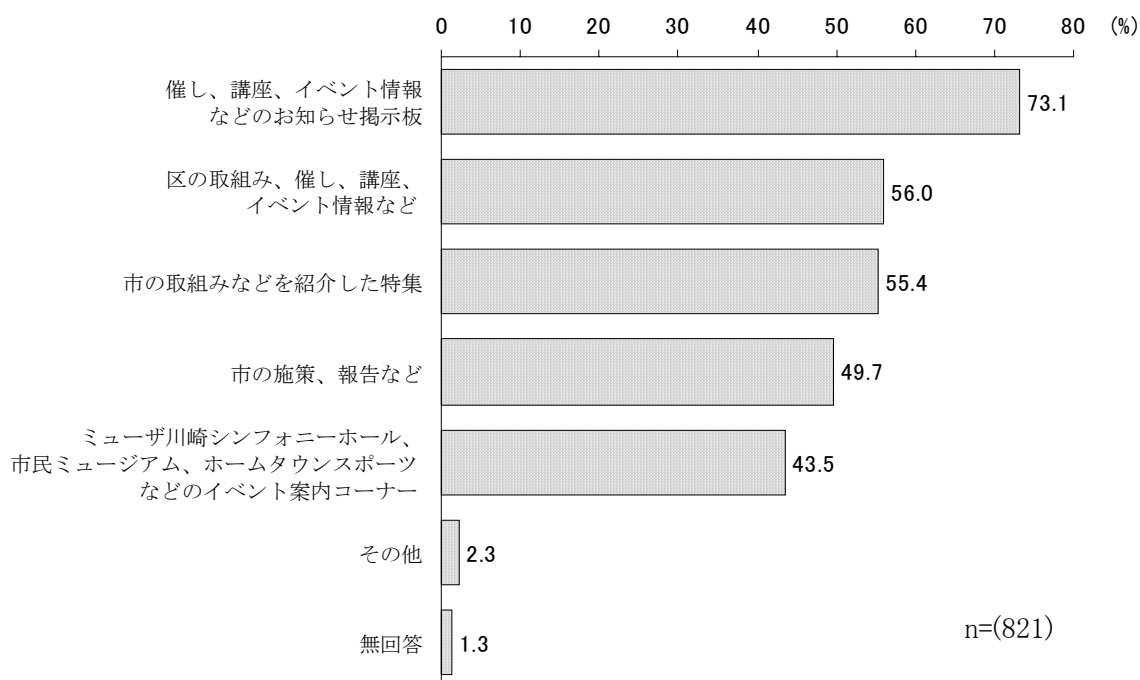
◎ 「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板」が73.1%

(問23で、かわさき市政だよりを「1. 両号とも読んでいる」、「2. 1日号のみ読んでいる」、「3. 21日号のみ読んでいる」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問23- (1) 「かわさき市政だより」の中でどの記事を読んでいますか。

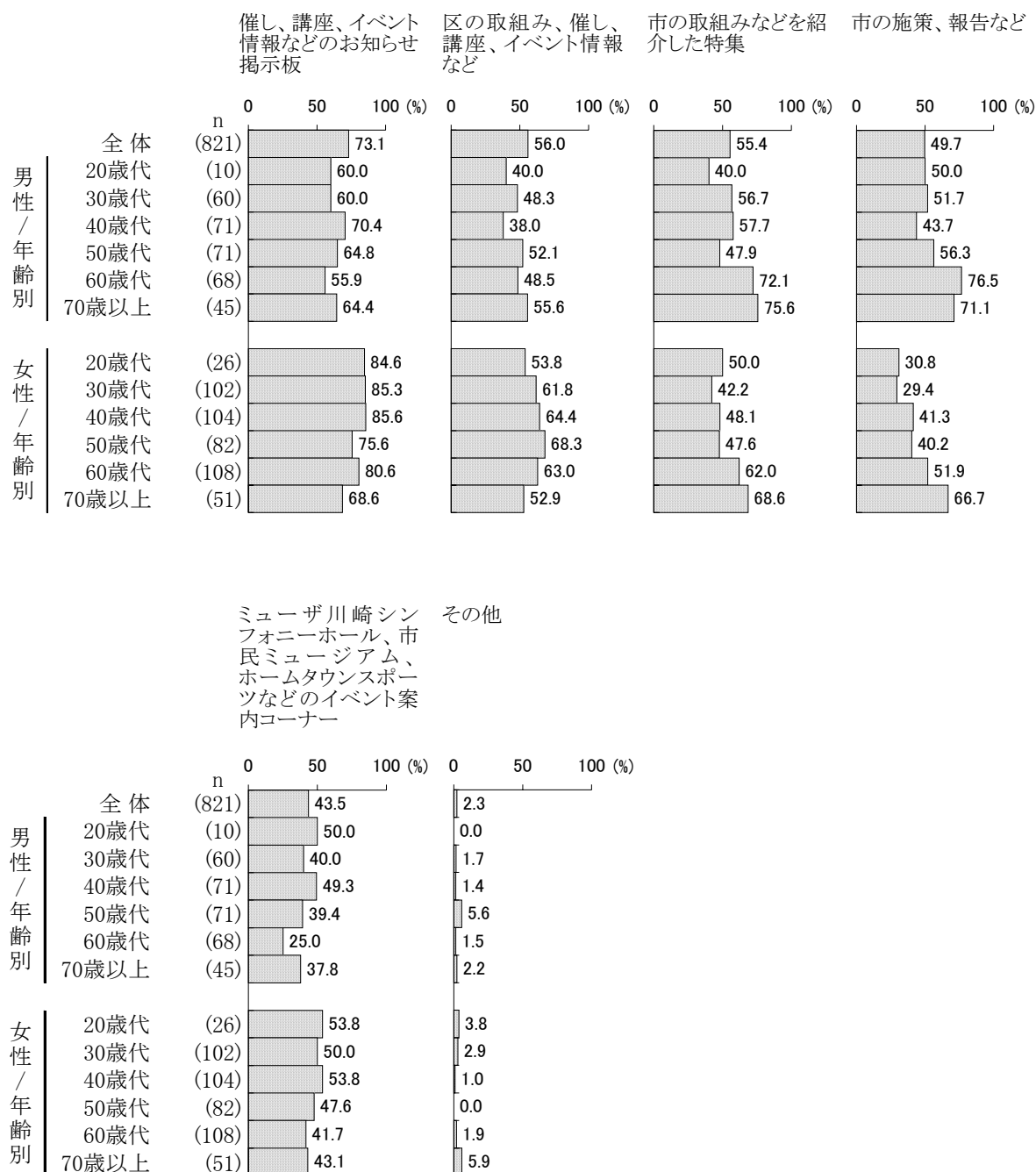
(あてはまるものすべてに○)

図表7-4 「かわさき市政だより」で読んでいる記事



『かわさき市政だより』で読んでいる記事は、「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板」が73.1%で最も多くなっている。以下「区の実施、催し、講座、イベント情報など」(56.0%)、「市の実施などを紹介した特集」(55.4%)、「市の施策、報告など」(49.7%)、「ミューザ川崎シンフォニーホール、市民ミュージアム、ホームタウンスポーツなどのイベント案内コーナー」(43.5%)と続いている。(図表7-4)

図表 7-5 「かわさき市政だより」で読んでいる記事 (性／年齢別)



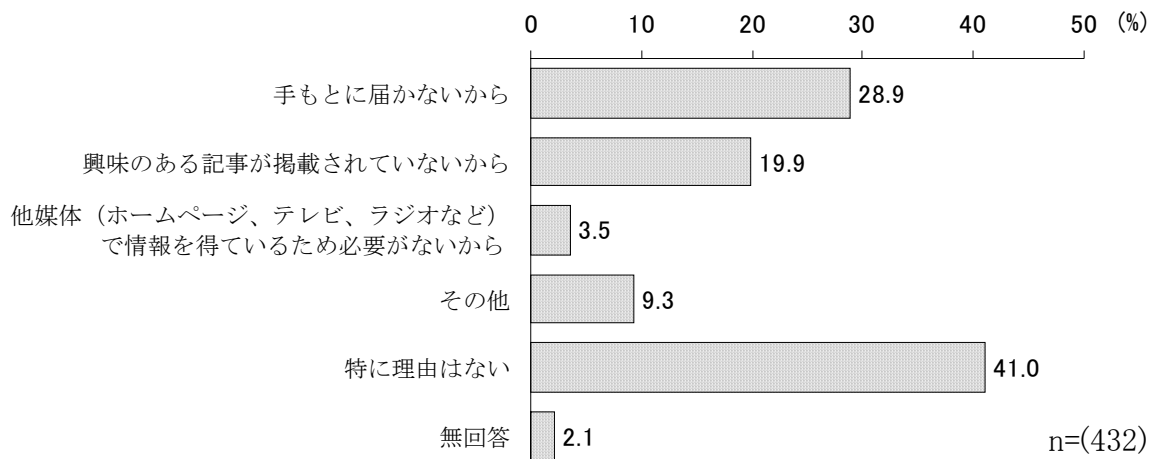
性／年齢別では、「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の20歳代～40歳代が8割台半ばとなっている。「区の実組み、催し、講座、イベント情報など」は、女性の30歳代～60歳代が6割台で多くなっているが、男性では、いずれの年齢層でも市全体を下回っており、特に20歳代が4割、40歳代が3割台後半で少なくなっている。「市の取組みなどを紹介した特集」は、男性の60歳代以上が7割台前半～7割台半ばで多くなっている。(図表 7-5)

7-3 「かわさき市政だより」を読んでいる理由

◎ 「手もとに届かないから」が 28.9%

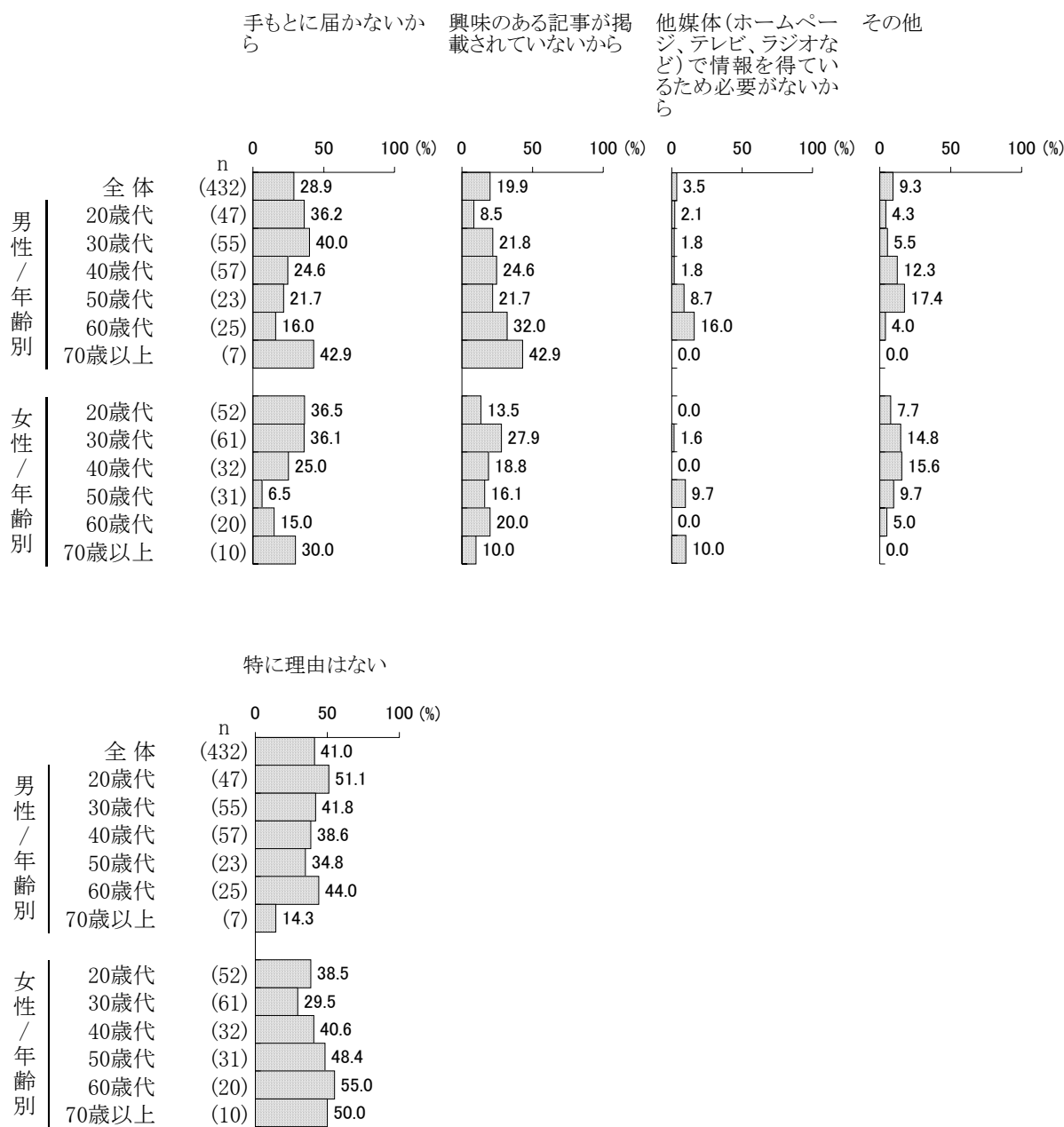
(問 23 で、かわさき市政だよりを「4. 読んでいない」と答えた方にうかがいます。)
問 23- (2) 読んでいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 7-6 「かわさき市政だより」を読んでいる理由



『かわさき市政だより』を読んでいる理由は、「手もとに届かないから」が 28.9%で最も多くなっている。以下「興味のある記事が掲載されていないから」(19.9%)、「他媒体（ホームページ、テレビ、ラジオなど）で情報を得ているため必要がないから」(3.5%)と続いている。(図表 7-6)

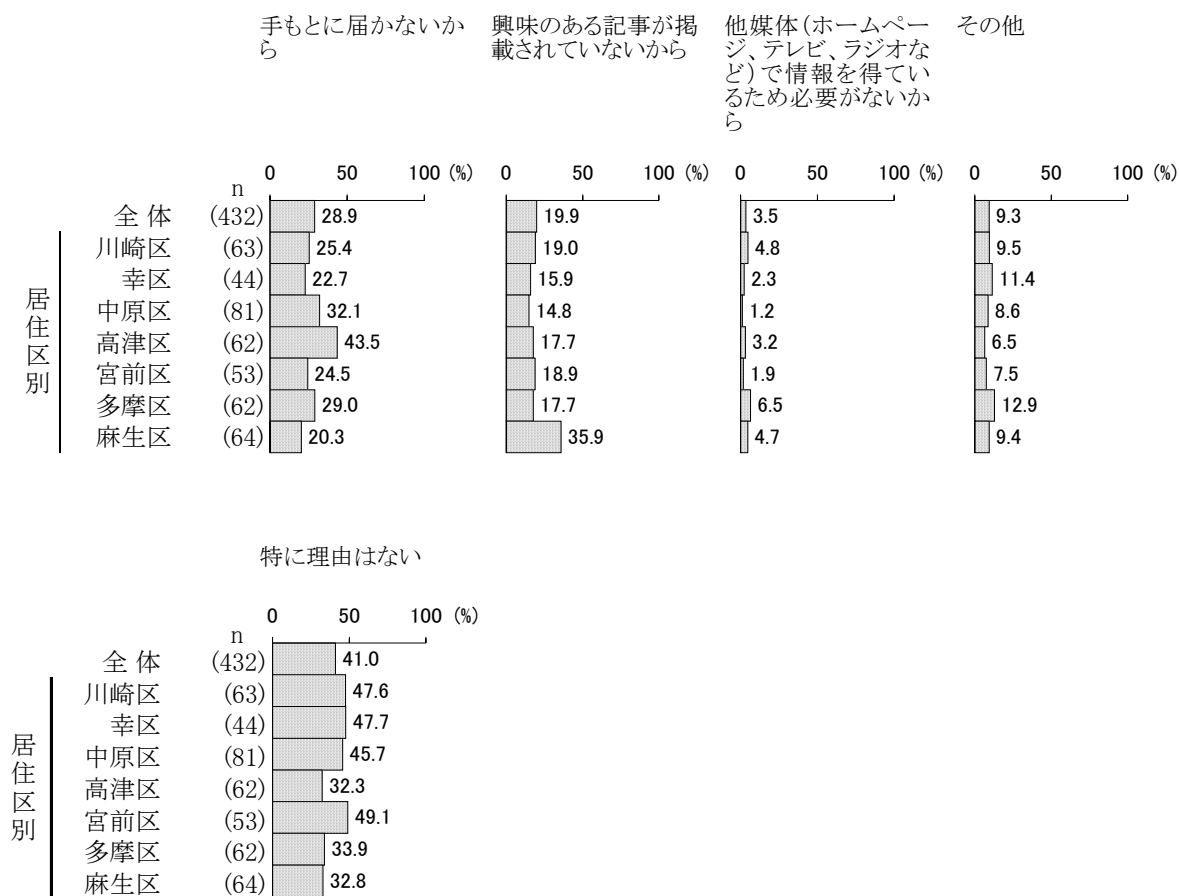
図表 7-7 「かわさき市政だより」を読んでいない理由 (性／年齢別)



性／年齢別では、「手もとに届かないから」は、男女ともに20歳代～30歳代で市全体を上回っている。(図表7-7)

※男女ともに50歳代以上は基数が少ないので図表を参考程度にとどめる。

図表 7-8 「かわさき市政だより」を読んでいない理由 (居住区別)



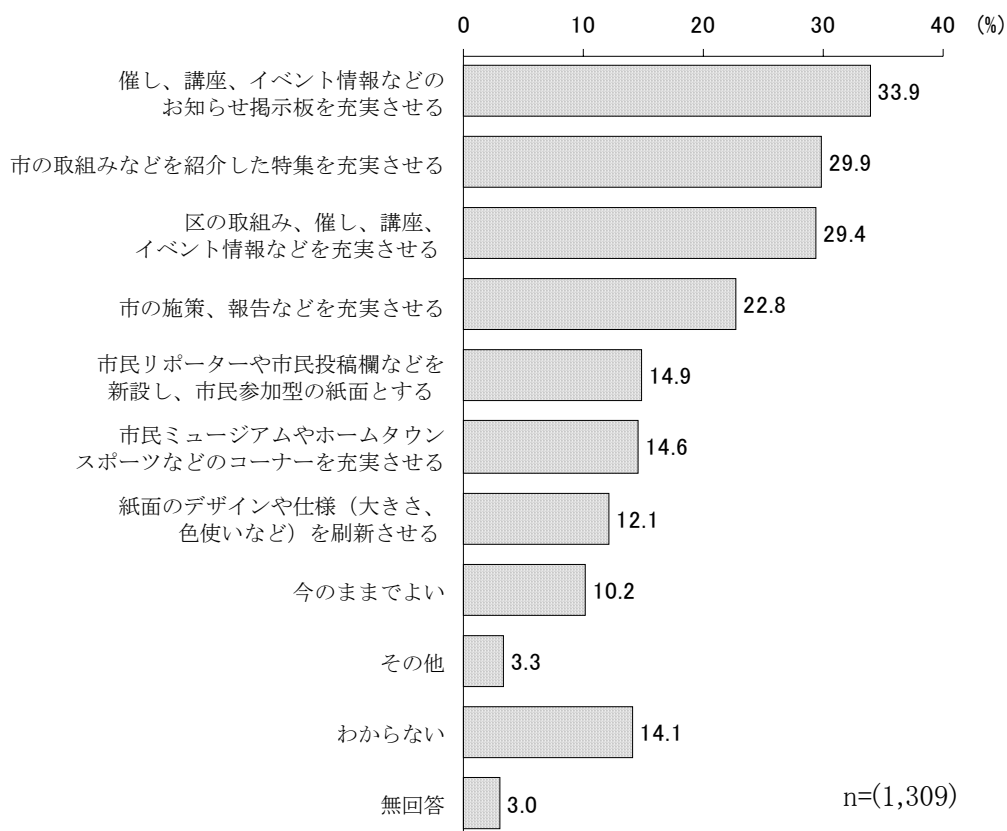
居住区別では、「手もとに届かないから」は、高津区が4割台前半で最も多く、中原区が3割台前半、他の居住区では、2割台となっている。「興味のある記事が掲載されていないから」は、麻生区で3割台半ばと多くなっている。(図表 7-8)

7-4 「かわさき市政だより」をよりよいものにするための方法

◎ 「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板を充実させる」が33.9%

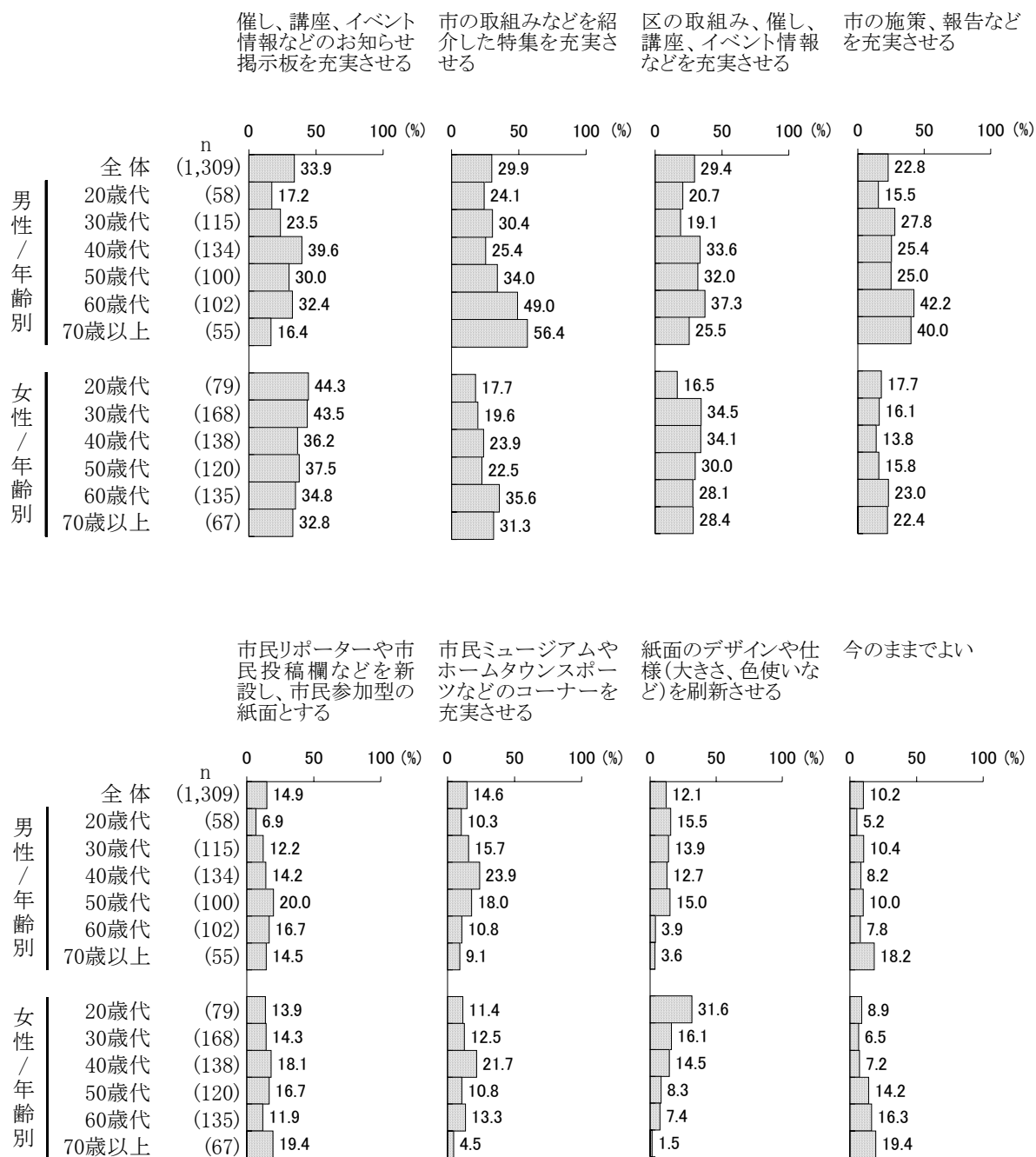
問 24 今後、「かわさき市政だより」をよりよいものにするためには、どうしたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

図表 7-9 「かわさき市政だより」をよりよいものにするための方法



『かわさき市政だより』をよりよいものにするための方法は、「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板を充実させる」が33.9%で最も多くなっている。以下「市の取組みなどを紹介した特集を充実させる」(29.9%)、「区の実施、催し、講座、イベント情報などを充実させる」(29.4%)、「市の施策、報告などを充実させる」(22.8%)、「市民リポーターや市民投稿欄などを新設し、市民参加型の紙面とする」(14.9%)と続いている。(図表 7-9)

図表 7-10 「かわさき市政だより」をよりよいものにするための方法 (性／年齢別、上位 8 項目)



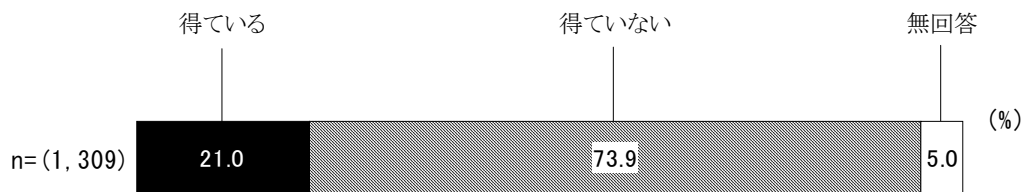
性／年齢別では、「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板を充実させる」は、男性の40歳代が約4割、女性の20歳代～30歳代が4割台前半で多くなっている。「市の取組みなどを紹介した特集を充実させる」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に男性の70歳以上は5割台半ばとなっている。一方、女性の20歳代は1割台後半で最も少なくなっている。(図表 7-10)

7-5 広報掲示板から情報取得の有無

◎ 「得ている」は21.0%

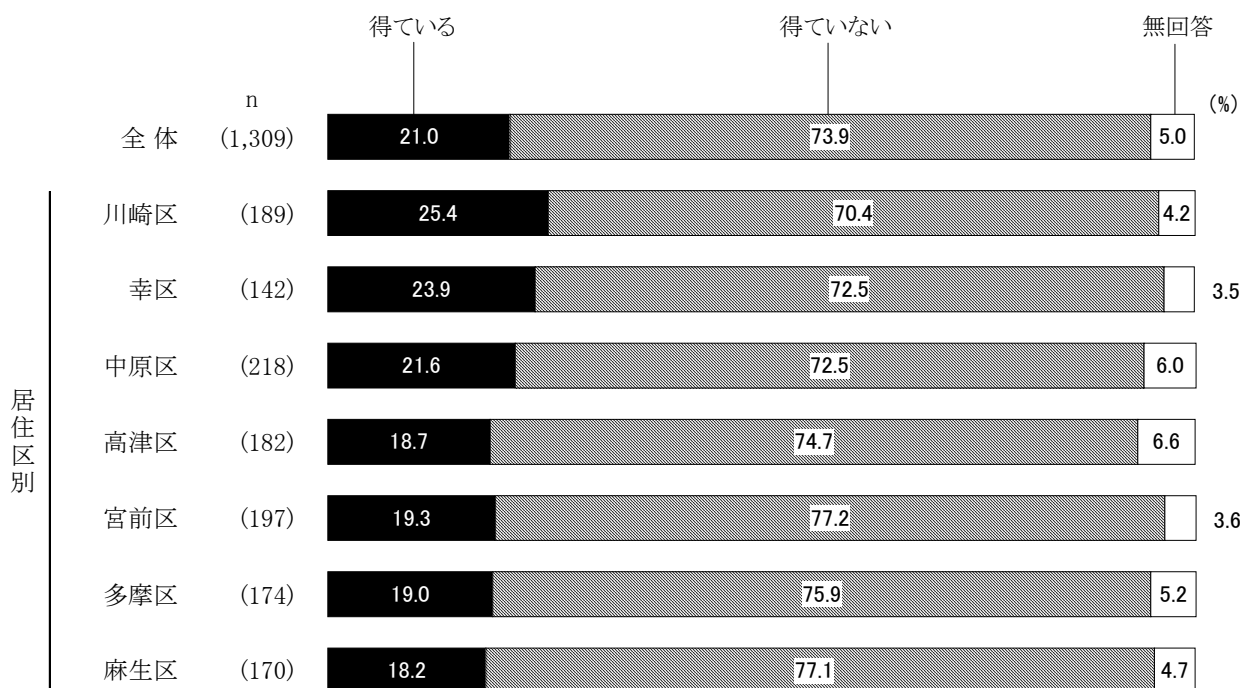
問 25 川崎市広報掲示板は、市内545ヵ所（町内会設置のものを除く）に設置していますが、広報掲示板から情報（お知らせ・案内など）を得ていますか。（○は1つ）

図表 7-11 広報掲示板から情報取得の有無



広報掲示板から情報を「得ている」人は21.0%、「得ていない」人は73.9%となっている。（図表7-11）

図表 7-12 広報掲示板から情報取得の有無 (居住区別)



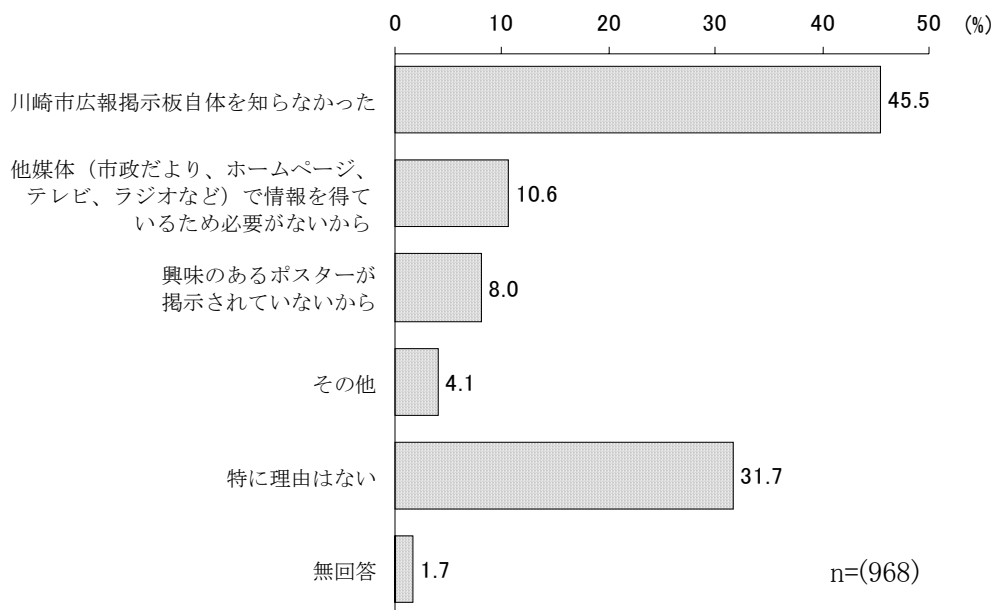
居住区別では、「得ている」は、いずれの居住区でも1割台後半～2割台半ばとなっている。(図表 7-12)

7-6 広報掲示板から情報を得ていない理由

◎ 「川崎市広報掲示板自体を知らなかった」が 45.5%

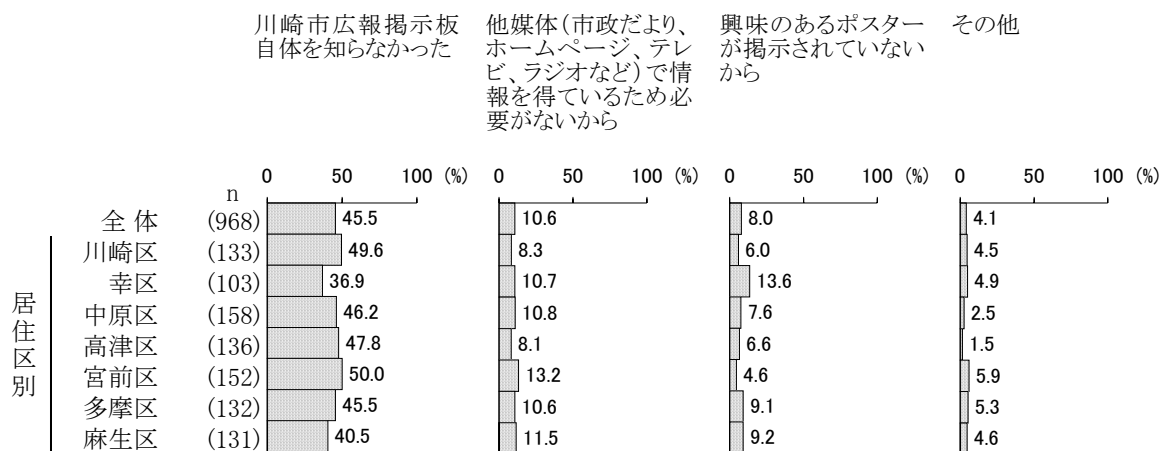
(問 25 で、広報掲示板から情報を「2. 得ていない」と答えた方にうかがいます。)
問 25- (1) 得ていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 7-13 広報掲示板から情報を得ていない理由



広報掲示板から情報を得ていない理由は、「川崎市広報掲示板自体を知らなかった」が 45.5%で最も多くなっている。以下「他媒体 (市政だより、ホームページ、テレビ、ラジオなど) で情報を得ているため必要がないから」(10.6%)、「興味のあるポスターが掲示されていないから」(8.0%)と続いている。(図表 7-13)

図表 7-14 広報掲示板から情報を得ていない理由 (居住区別)



居住区別では、「川崎市広報掲示板自体を知らなかった」は、概ね4割台～5割となっているが、幸区では、3割台半ばとなっている。(図表 7-14)

7-7 川崎市ホームページの閲覧状況

◎ 「見たことがある」が 30.0%

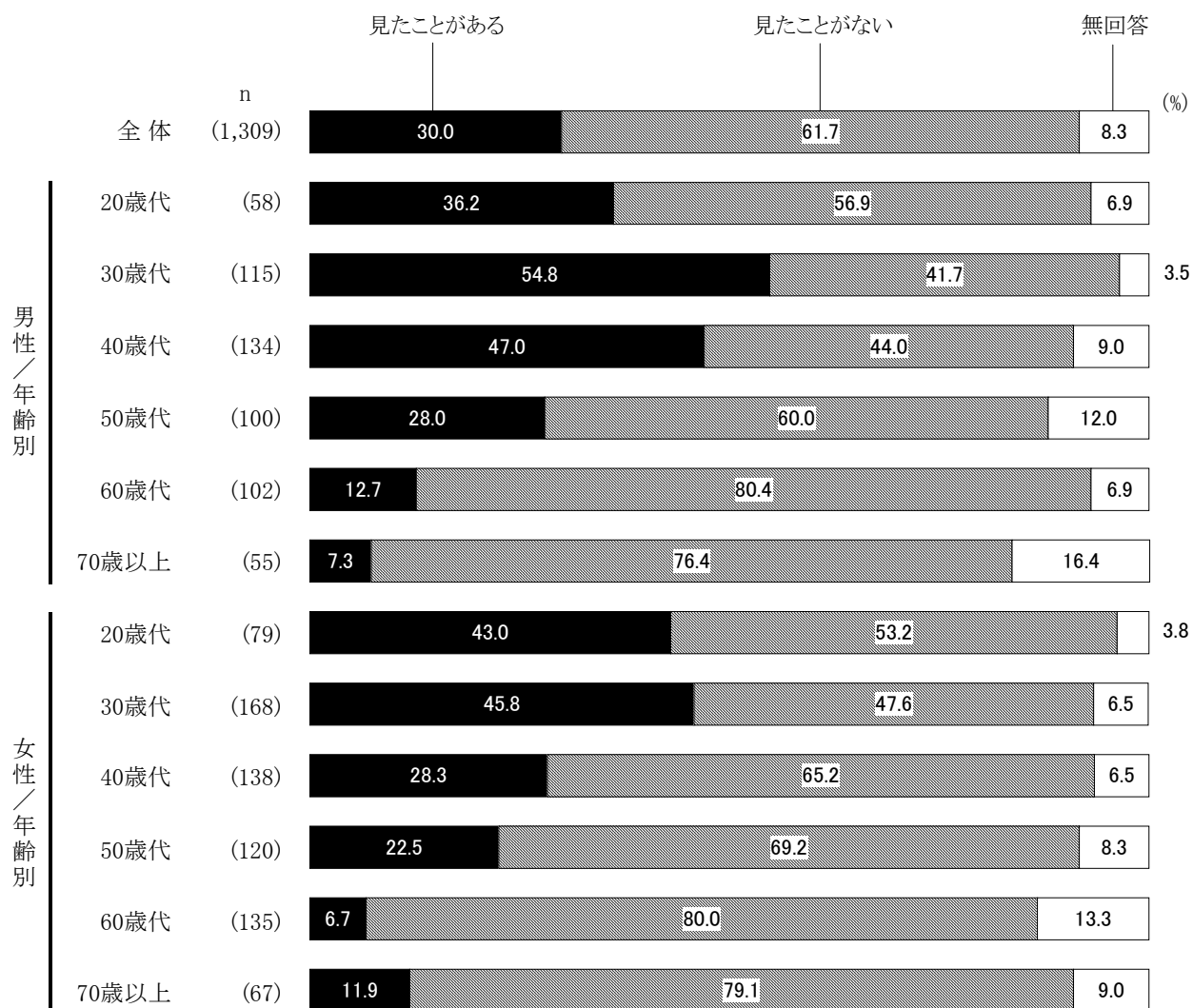
問 26 川崎市ホームページ (URL <http://www.city.kawasaki.jp/>) を見たことがありますか。(○は1つ)

図表 7-15 川崎市ホームページの閲覧状況



川崎市ホームページを「見たことがある」人は 30.0%、「見たことがない」は 61.7%となっており、およそ 3 人中 1 人に閲覧経験があった。(図表 7-15)

図表 7-16 川崎市ホームページの閲覧状況 (性／年齢別)



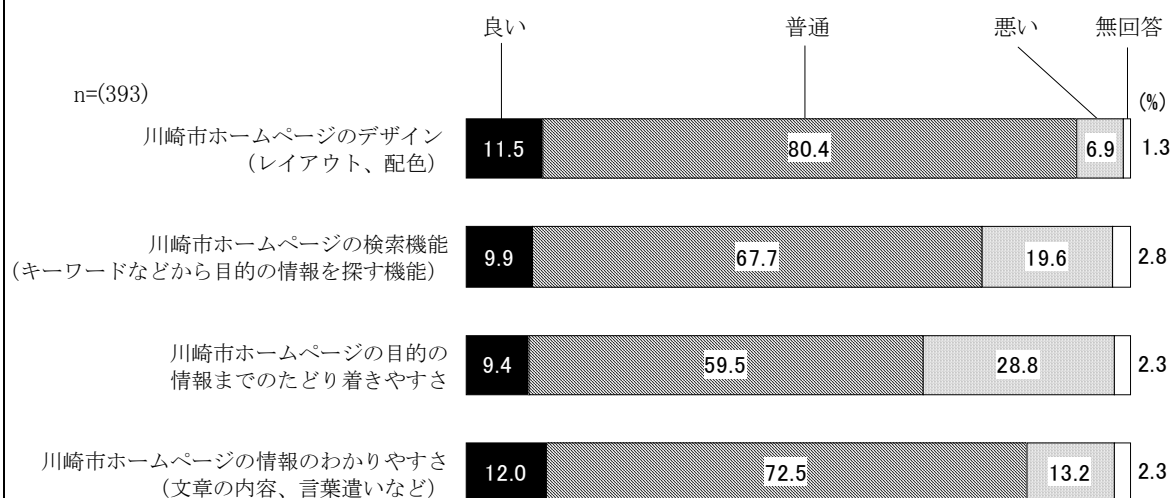
性／年齢別では、「見たことがある」は、男性では、20歳代～40歳代が3割台半ば～5割台半ば、女性では、20歳代～30歳代が4割台前半～4割台半ばで市全体を上回っており、若年層で割合が多くなっている。一方、男女ともに60歳代以上の高齢層では1割台前半、又は1割未満と少なくなっている。(図表 7-16)

7-8 川崎市ホームページの評価

- ◎ 「良い」が最も多かったのは“情報のわかりやすさ（文章の内容、言葉遣いなど）”で12.0%、「悪い」が最も多かったのは、“目的の情報までのたどり着きやすさ”で28.8%

（問26で、川崎市ホームページを「1. 見たことがある」と答えた方にうかがいます。）
問26-（1） デザインや機能についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

図表7-17 川崎市ホームページの評価



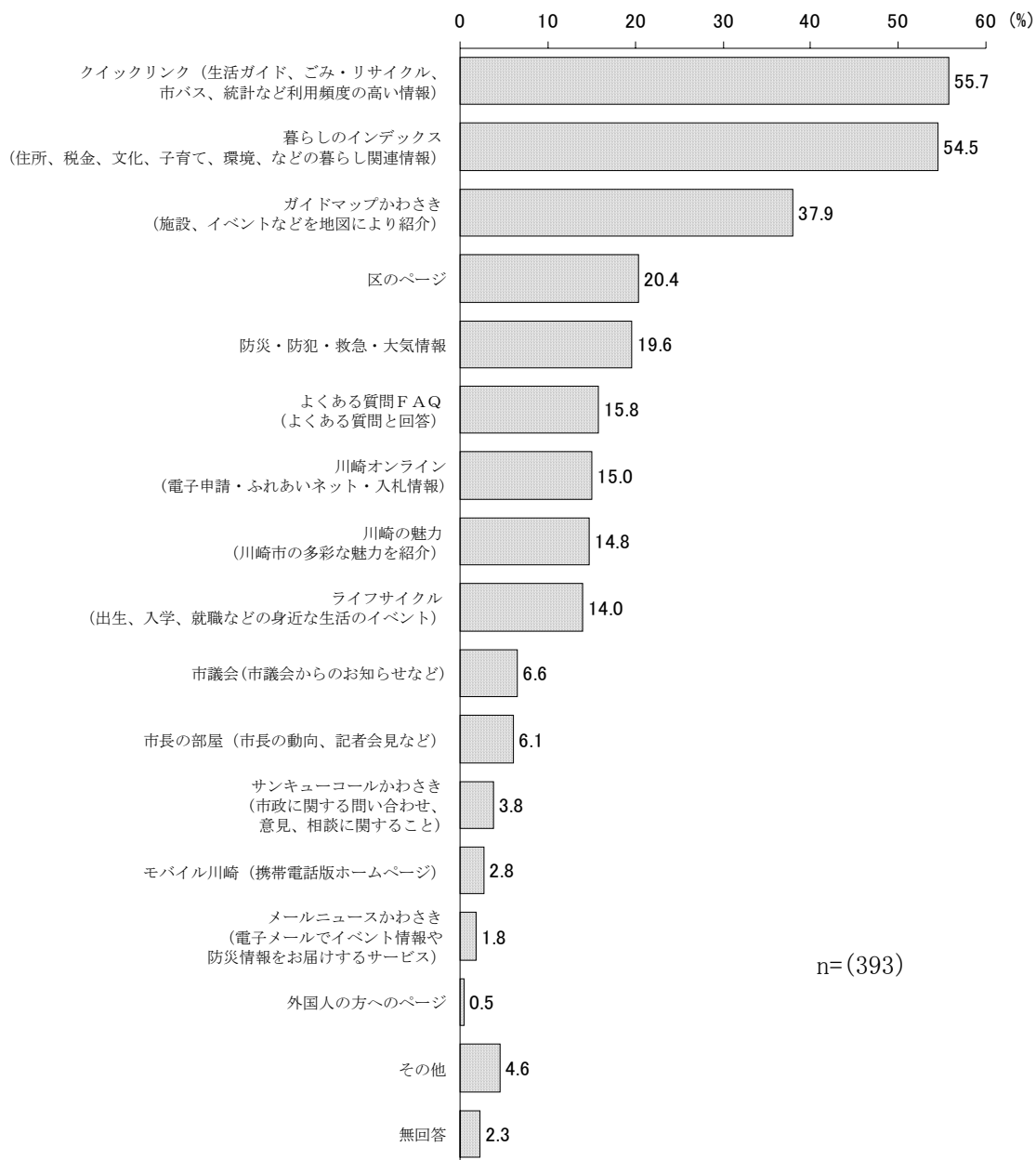
川崎市ホームページの評価は、全体的に「普通」が最も多くなっている。「良い」は、いずれの項目でも1割前後となっている。一方、「悪い」は“目的の情報までのたどり着きやすさ”が2割台後半となっている。（図表7-17）

7-9 川崎市ホームページで利用したことのあるメニュー

- ◎ 「クイックリンク（生活ガイド、ごみ・リサイクル、市バス、統計など利用頻度の高い情報）」が55.7%

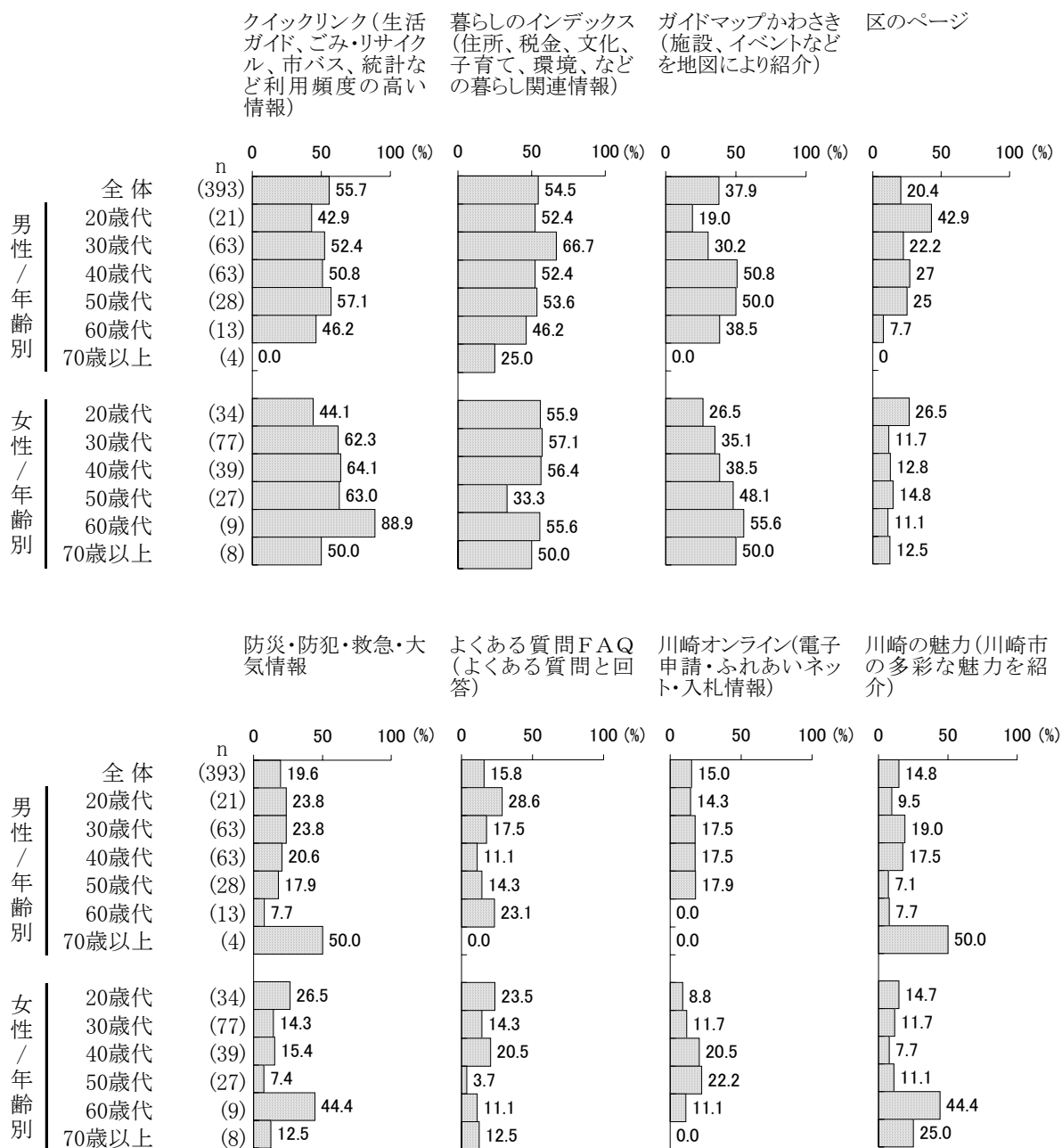
（問 26 で、川崎市ホームページを「1. 見たことがある」と答えた方にうかがいます。）
問 26-（2） 利用したことがあるメニューは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 7-18 川崎市ホームページで利用したことのあるメニュー



川崎市ホームページで利用したことのあるメニューは、「クイックリンク（生活ガイド、ごみ・リサイクル、市バス、統計など利用頻度の高い情報）」（55.7%）、「暮らしのインデックス（住所、税金、文化、子育て、環境、などの暮らし関連情報）」（54.5%）が多くなっている。（図表 7-18）

図表 7-19 川崎市ホームページで利用したことのあるメニュー (性／年齢別、上位 8 項目)



性／年齢別では、「クイックリンク(生活ガイド、ごみ・リサイクル、市バス、統計など利用頻度の高い情報)」は、全体的に男性より女性の方が多くなっている。「暮らしのインデックス(住所、税金、文化、子育て、環境、などの暮らし関連情報)」は、男性では、30歳代が6割台半ばで最も多くなっている。(図表 7-19)

※男女ともに 60 歳代以上は基数が少ないので図表を参考程度にとどめる。

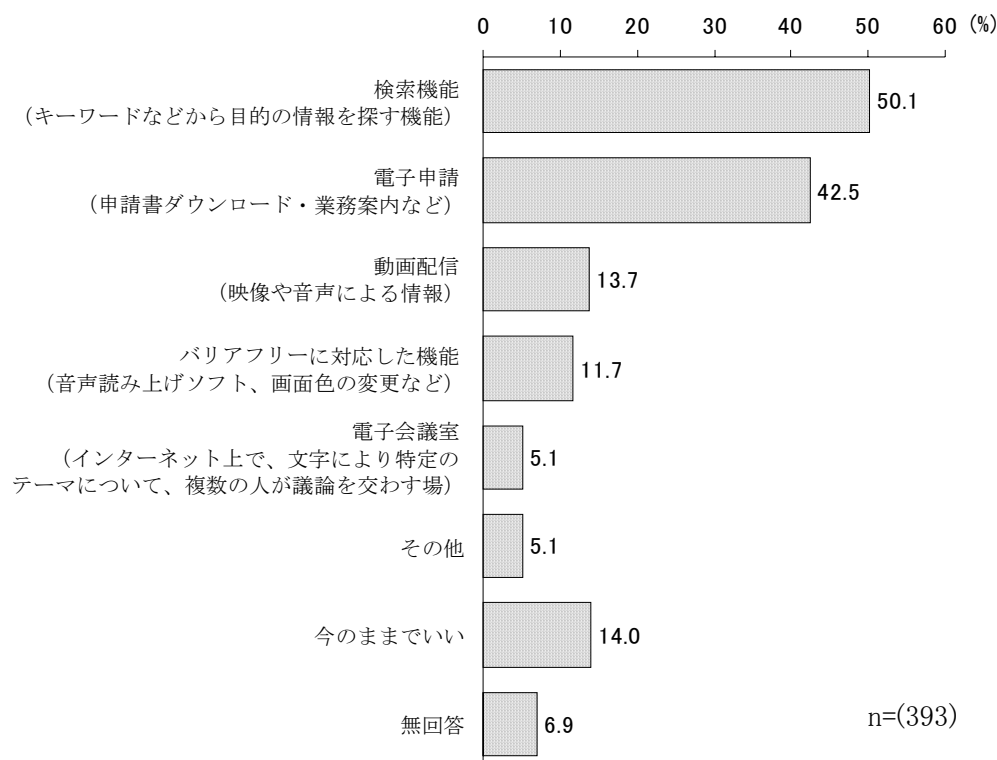
7-10 今後充実させた方が良いと思う機能

◎ 検索機能が50.1%

(問 26 で、川崎市ホームページを「1. 見たことがある」と答えた方にうかがいます。
問 26- (3) 今後充実させた方が良いと思う機能は何ですか。

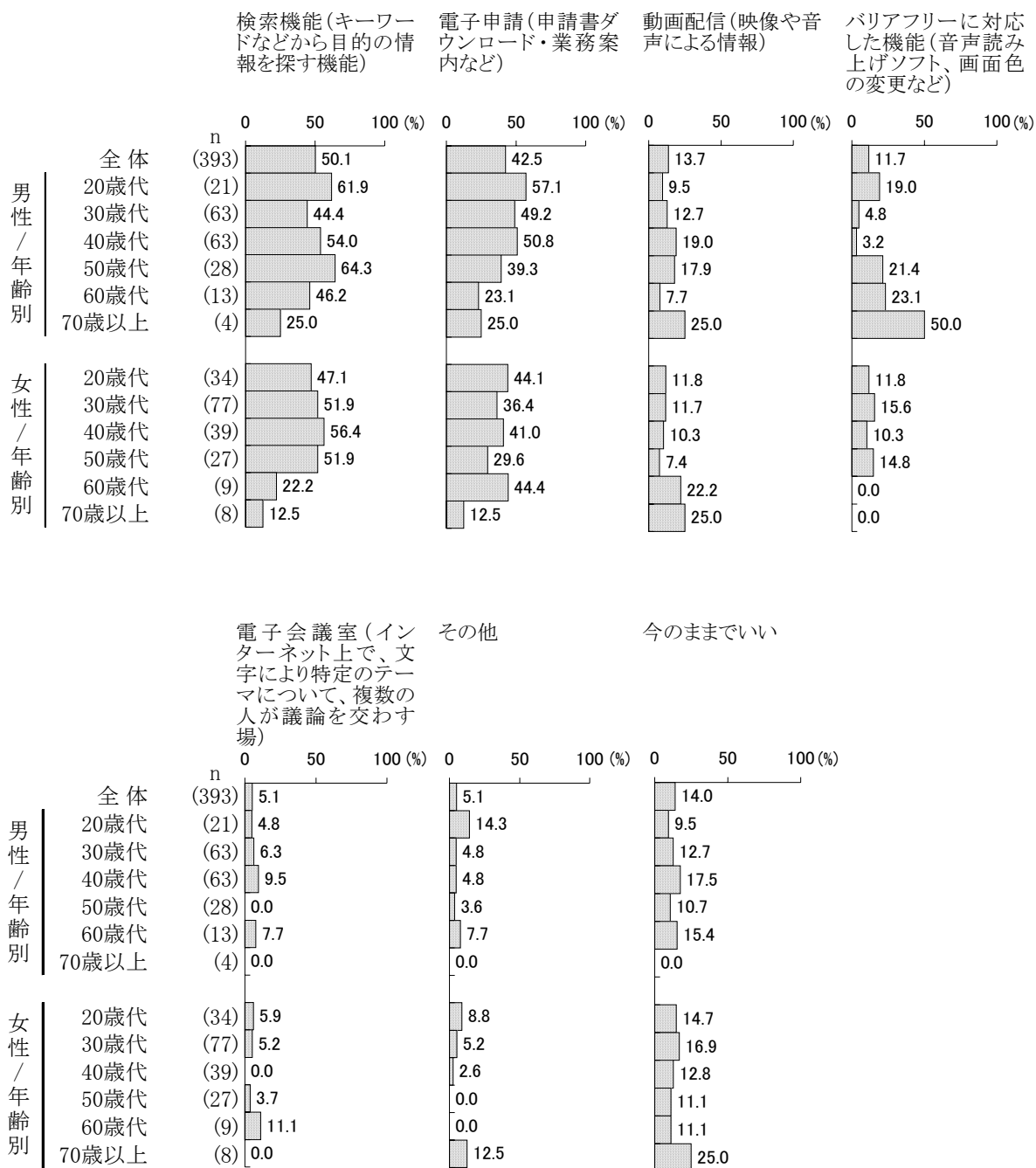
(あてはまるものすべてに○)

図表 7-20 今後充実させた方が良いと思う機能



川崎市ホームページで今後充実させた方が良いと思う機能は、「検索機能（キーワードなどから目的の情報を探す機能）」が50.1%で最も多くなっている。以下「電子申請（申請書ダウンロード・業務案内など）」（42.5%）、「動画配信（映像や音声による情報）」（13.7%）、「バリアフリーに対応した機能（音声読み上げソフト、画面色の変更など）」（11.7%）、「電子会議室（インターネット上で、文字により特定のテーマについて、複数の人が議論を交わす場）」（5.1%）と続いている。（図表 7-20）

図表 7-21 今後充実させた方が良いと思う機能 (性／年齢別)



性／年齢別では、「検索機能(キーワードなどから目的の情報を探す機能)」は、男性では、20歳代と50歳代が6割台前半～6割台半ばで多くなっている。女性では、20歳代～50歳代が4割台後半～5割台半ばとなっている。「電子申請(申請書ダウンロード・業務案内など)」は、男性の20歳代が5割台後半、30歳代～40歳代が約5割となっている。(図表7-21)

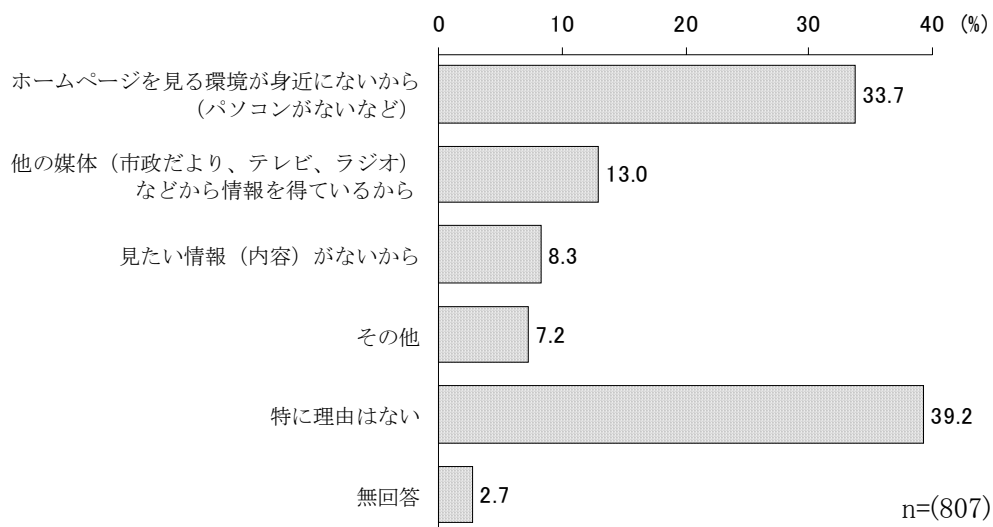
※男女ともに60歳代以上は基数が少ないので図表を参考程度にとどめる。

7-11 川崎市ホームページを見たことがない理由

◎ 「ホームページを見る環境が身近にないから（パソコンがないなど）が33.7%

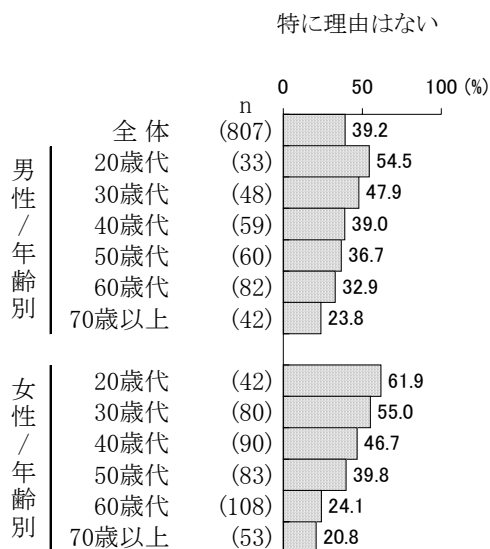
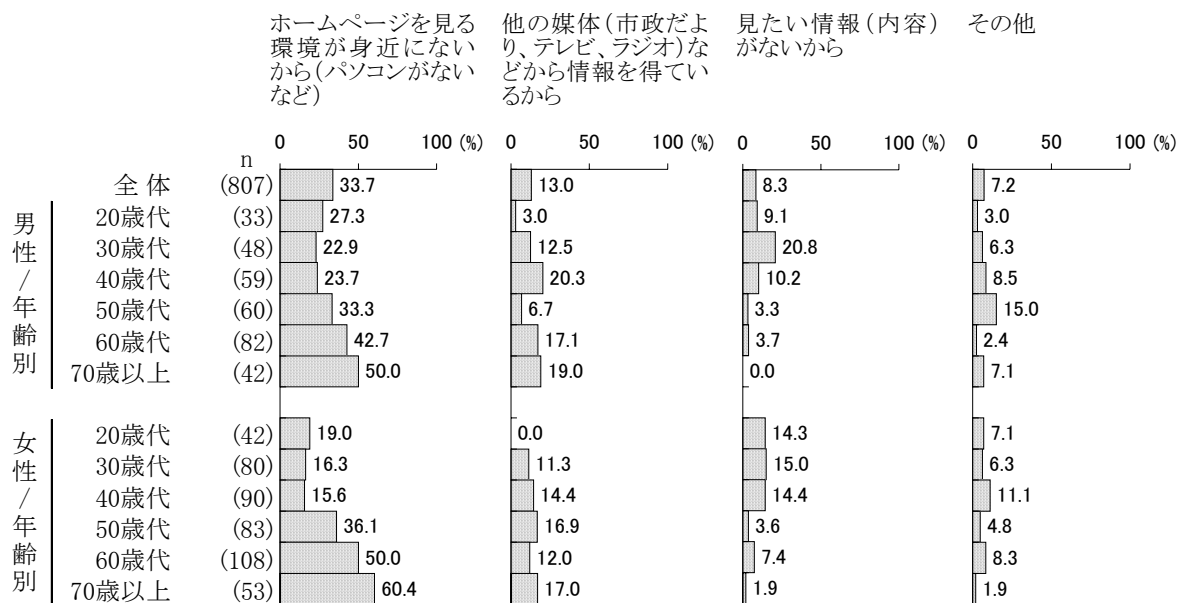
（問 26 で、川崎市ホームページを「2. 見たことがない」と答えた方にうかがいます。）
問 26-（4） 見たことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 7-22 川崎市ホームページを見たことがない理由



川崎市ホームページを見たことがない理由は、「ホームページを見る環境が身近にないから（パソコンがないなど）」が33.7%で最も多くなっている。以下「他の媒体（市政だより、テレビ、ラジオ）などから情報を得ているから」（13.0%）、「見たい情報（内容）がないから」（8.3%）と続いている。（図表 7-22）

図表 7-23 川崎市ホームページを見たことがない理由 (性／年齢別)



性／年齢別では、「ホームページを見る環境が身近にないから(パソコンがないなど)」は、男性では、70歳以上が5割と多く、女性では、60歳代が5割、70歳以上が約6割で多くなっている。

「他の媒体(市政だより、テレビ、ラジオ)などから情報を得ているから」は、男女ともに20歳代が他の年齢層と比べて少なくなっており、特に女性では皆無となっている。(図表7-23)

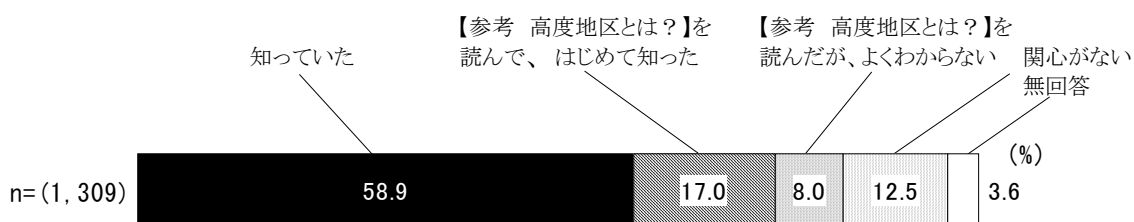
8 建物の高さの制限について

8-1 高度地区の認知状況

◎ 「知っていた」は58.9%

問 27 建物を建てる際に、高度地区という「建築物の高さの制限」に関するルールがあることを、知っていましたか。(○は1つ)

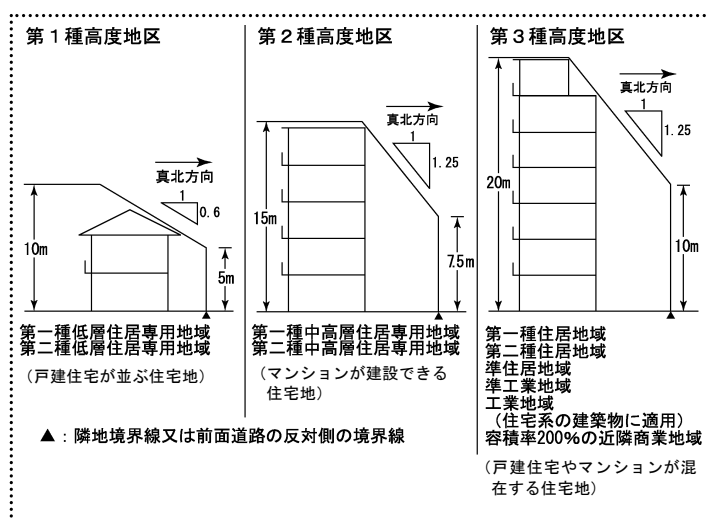
図表 8-1 高度地区の認知状況



高度地区を「知っていた」は 58.9%で最も多くなっている。以下「【参考 高度地区とは？】を読んで、はじめて知った」は 17.0%、「【参考 高度地区とは？】を読んだが、よくわからない」は 8.0%となっている。(図表 8-1)

【参考】高度地区とは？

市では、駅前商店街・住宅地・工場地帯などの地域の特性に応じて、建築物の用途（住宅、店舗、工場などの建物の種類）の制限¹⁾や、建物のボリューム（容積）の制限²⁾などと併せ、建築物の高さの制限として、次の3種の高度地区を定めています。

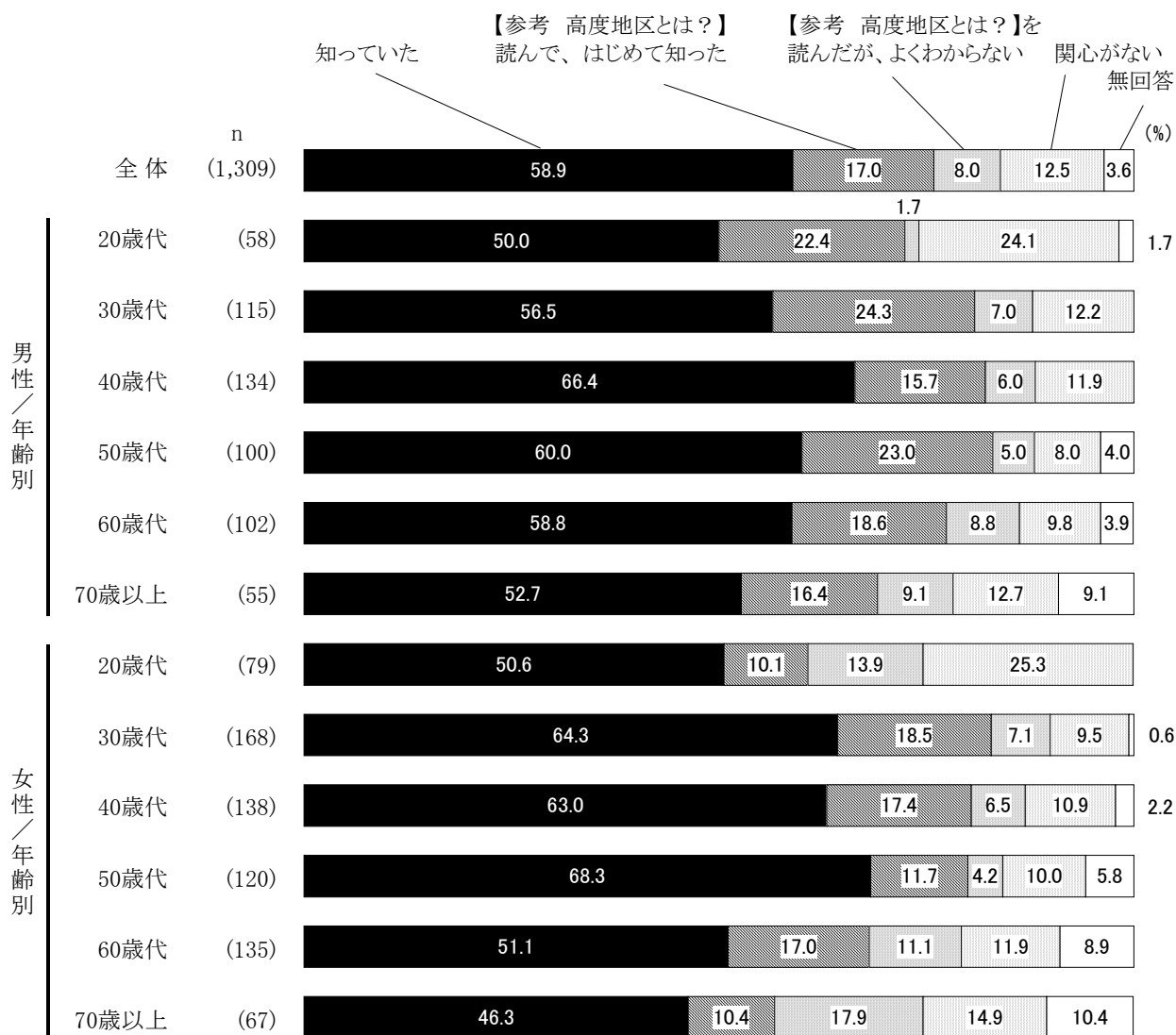


※幹線道路沿いや駅前商店街の用途地域が「容積率300%以上の近隣商業地域」と「商業地域」に指定されている地区や、海沿いの工業地帯の用途地域が「工業専用地域」に指定されている地区は、店舗や事務所、工業の営業・操業の利便性を高めるべき地域、又は土地の高度利用を図るべき地域であるため、高度地区の指定は、現在行っていない。

1) 都市計画では、この制限を「用途地域」指定と呼んでおり、川崎市では、市内を「戸建住宅が並ぶ住宅地」「商業ビルを中心とする商業地」「工場しか建設できない工場地帯」など12種類に色分けしています。

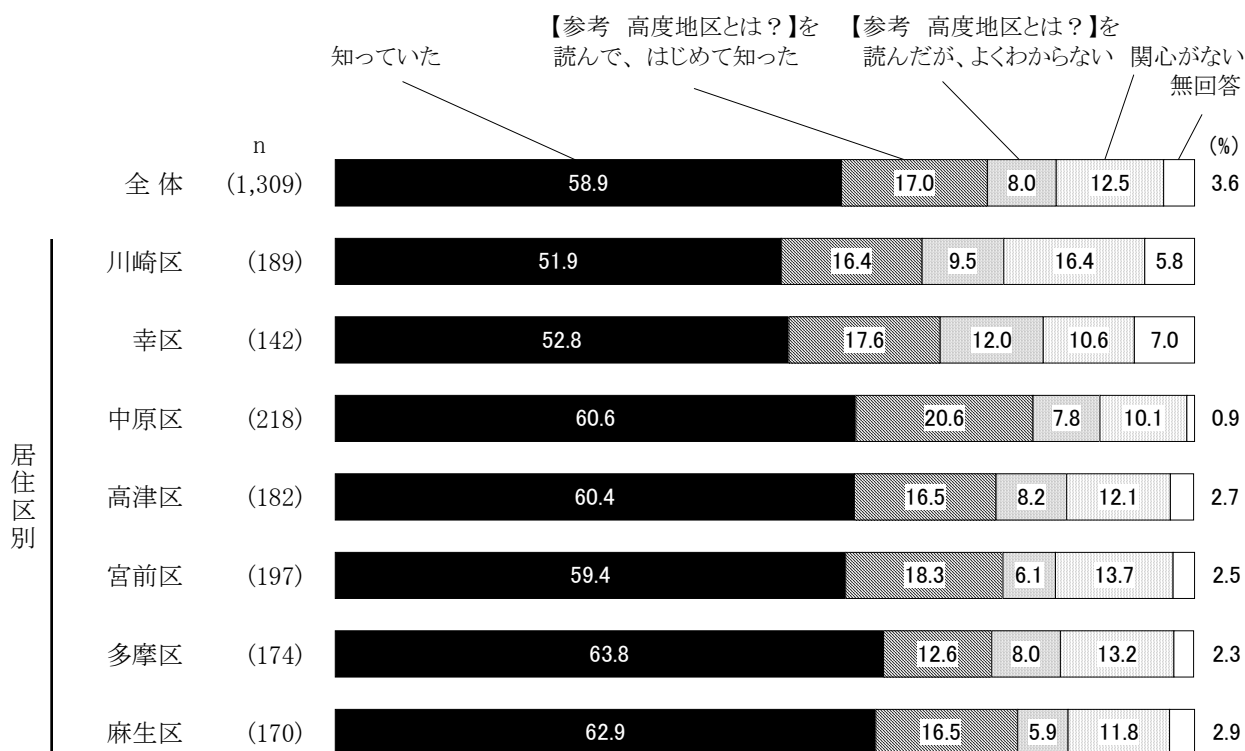
2) 「延床面積÷敷地面積×100(%)」という式で建物のボリュームを表して制限しています。

図表 8－2 高度地区の認知状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、高度地区を「知っていた」は、男性の40歳代～50歳代、女性の30歳代～50歳代が6割～6割台後半で多くなっている。「【参考 高度地区とは？】を読んで、はじめて知った」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に男性の20歳代～30歳代と50歳代が2割を超えている。(図表8－2)

図表 8－3 高度地区の認知状況 (居住区別)



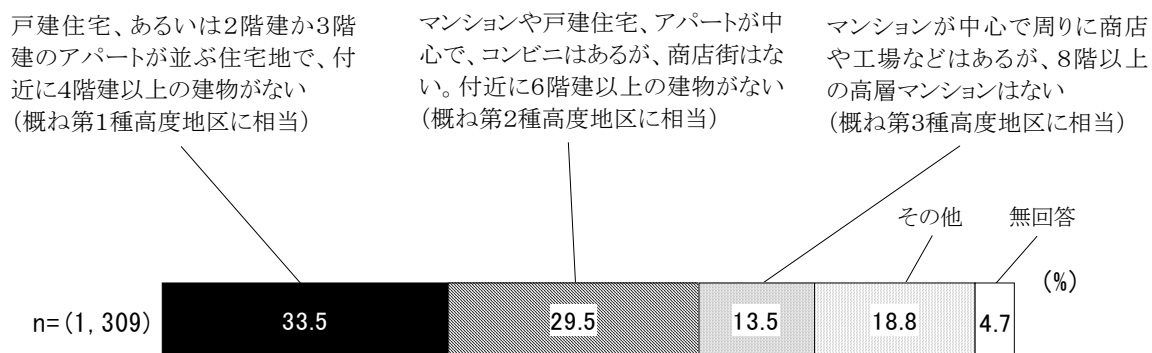
居住区別では、「知っていた」は、多摩区、麻生区が6割台前半、中原区、高津区、宮前区が約6割となっている。(図表8－3)

8-2 居住地域について

- ◎ 「戸建住宅、あるいは2階建か3階建のアパートが並ぶ住宅地で、付近に4階建以上の建物がない（概ね第1種高度地区に相当）」が33.5%

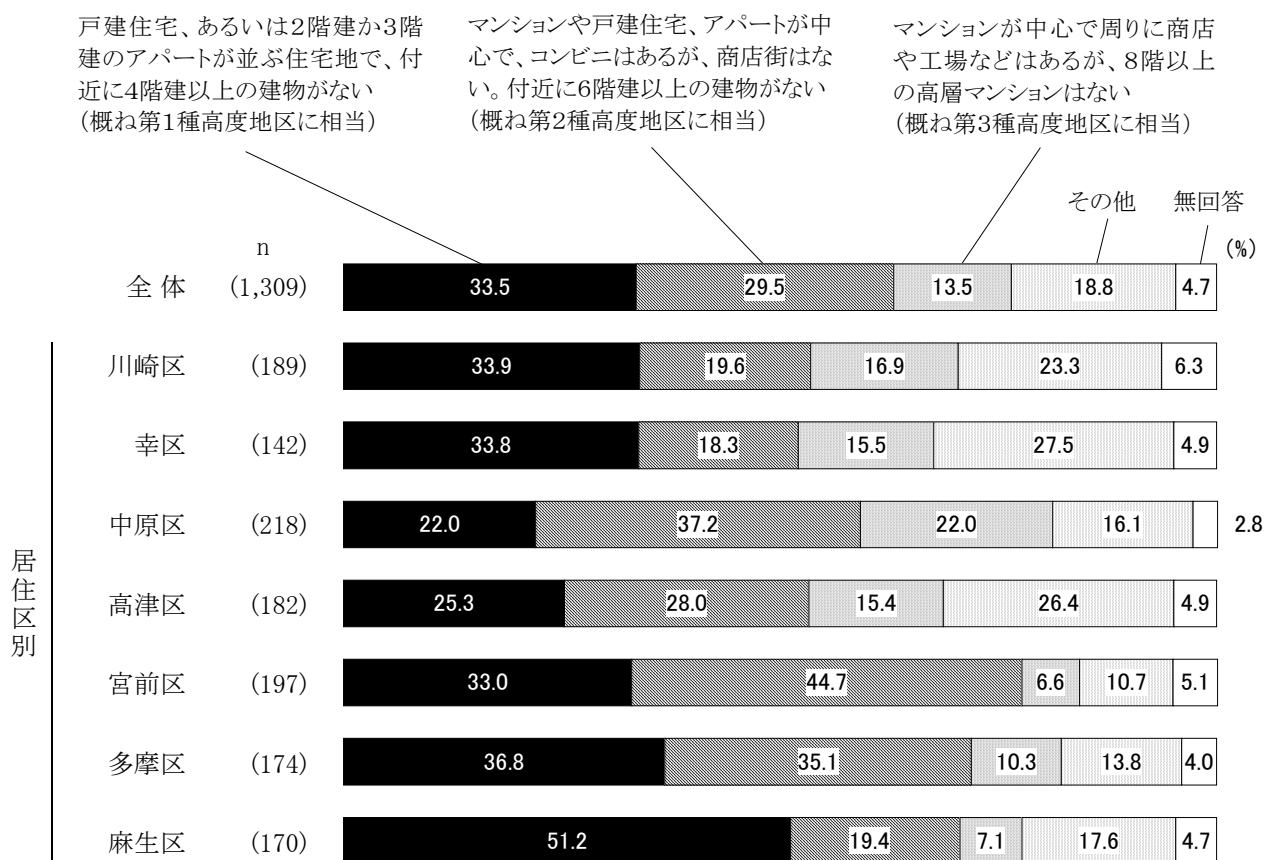
問 28 あなたのお住まいの地域は、どれにあてはまりますか。（○は1つ）

図表 8-4 居住地域について



居住地域は、「戸建住宅、あるいは2階建か3階建のアパートが並ぶ住宅地で、付近に4階建以上の建物がない（概ね第1種高度地区に相当）」は33.5%、「マンションや戸建住宅、アパートが中心で、コンビニはあるが、商店街はない。付近に6階建以上の建物がない（概ね第2種高度地区に相当）」は29.5%、「マンションが中心で周りに商店や工場などはあるが、8階以上の高層マンションはない（概ね第3種高度地区に相当）」は13.5%となっている。（図表8-4）

図表 8－5 居住地域について (居住区別)



居住区別では、「戸建住宅、あるいは2階建か3階建のアパートが並ぶ住宅地で、付近に4階建以上の建物がない（概ね第1種高度地区に相当）」は、麻生区が約5割で多くなっている。「マンションや戸建住宅、アパートが中心で、コンビニはあるが、商店街はない。付近に6階建以上の建物がない（概ね第2種高度地区に相当）」は、宮前区が4割台半ばで多くなっている。「マンションが中心で周りに商店や工場などはあるが、8階以上の高層マンションはない（概ね第3種高度地区に相当）」は、中原区が2割台前半となっている。（図表8－5）

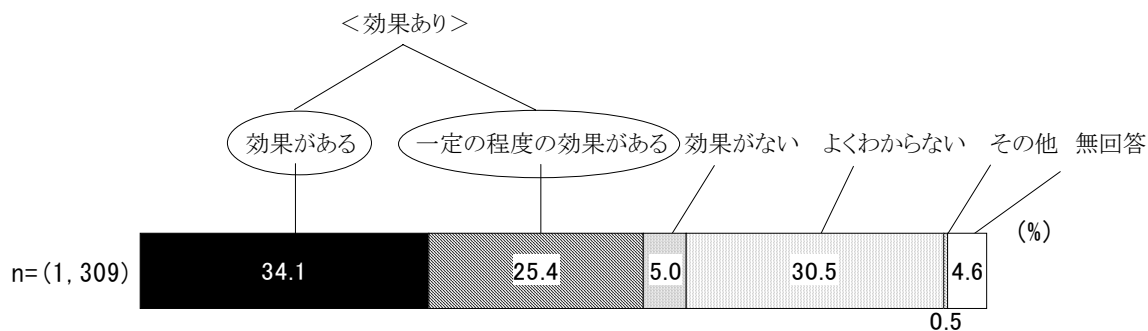
8－3 高度地区の「良好な街並みづくり」への効果について

◎ ＜効果あり＞は 59.5%

問 29 お住まいの地域の建物の高さや街並みを見て、高度地区（建築物の高さの制限）は、地域の特性に応じた「良好な街並みづくり」に効果があると思いますか。

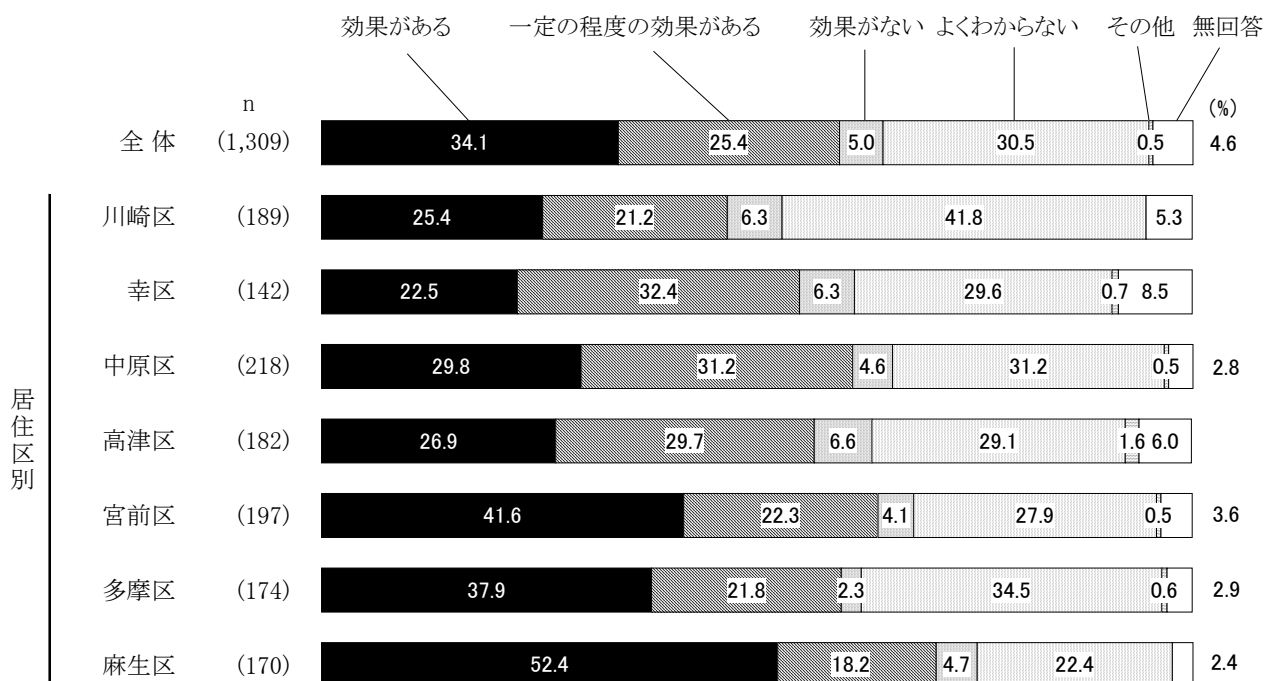
（○は 1 つ）

図表 8－6 高度地区の「良好な街並みづくり」への効果について



高度地区（建築物の高さの制限）の『良好な街並みづくり』への効果について、「効果がある」は 34.1%、「一定の程度の効果がある」が 25.4%で、あわせた＜効果あり＞は 59.5%となっている。（図表 8－6）

図表 8－7 高度地区の「良好な街並みづくり」への効果について (居住区別)



居住区別では、＜効果あり＞は、麻生区が約7割、宮前区、中原区が6割台前半となっている。一方、「効果がない」は、いずれの居住区でも1割未満で少なくなっている。(図表8－7)

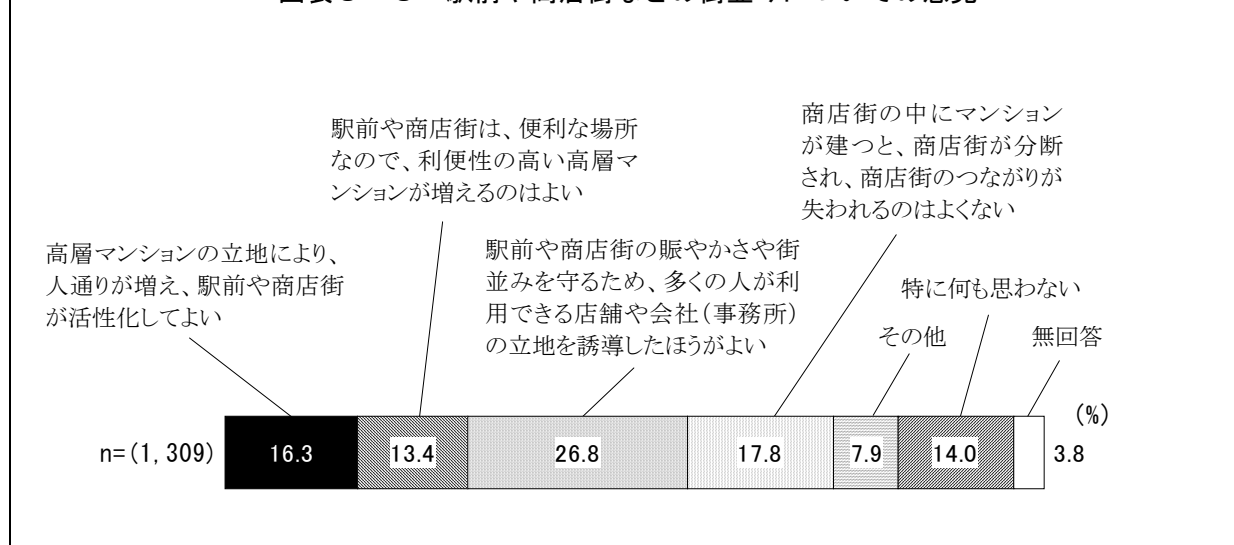
8-4 駅前や商店街などの街並みについての意見

- ◎ 「駅前や商店街の賑やかさや街並みを守るため、多くの人が利用できる店舗や会社（事務所）の立地を誘導したほうがよい」が26.8%で最も多い

問 30 現在、駅前や商店街は、利便性が高いため、土地を有効に活用して高い建物が建てられるように「商業地域」や「近隣商業地域」といった用途地域を指定しており、高度地区（建築物の高さの制限）の指定は行っていません。そのため、最近では、高層マンションの建設が目立っています。

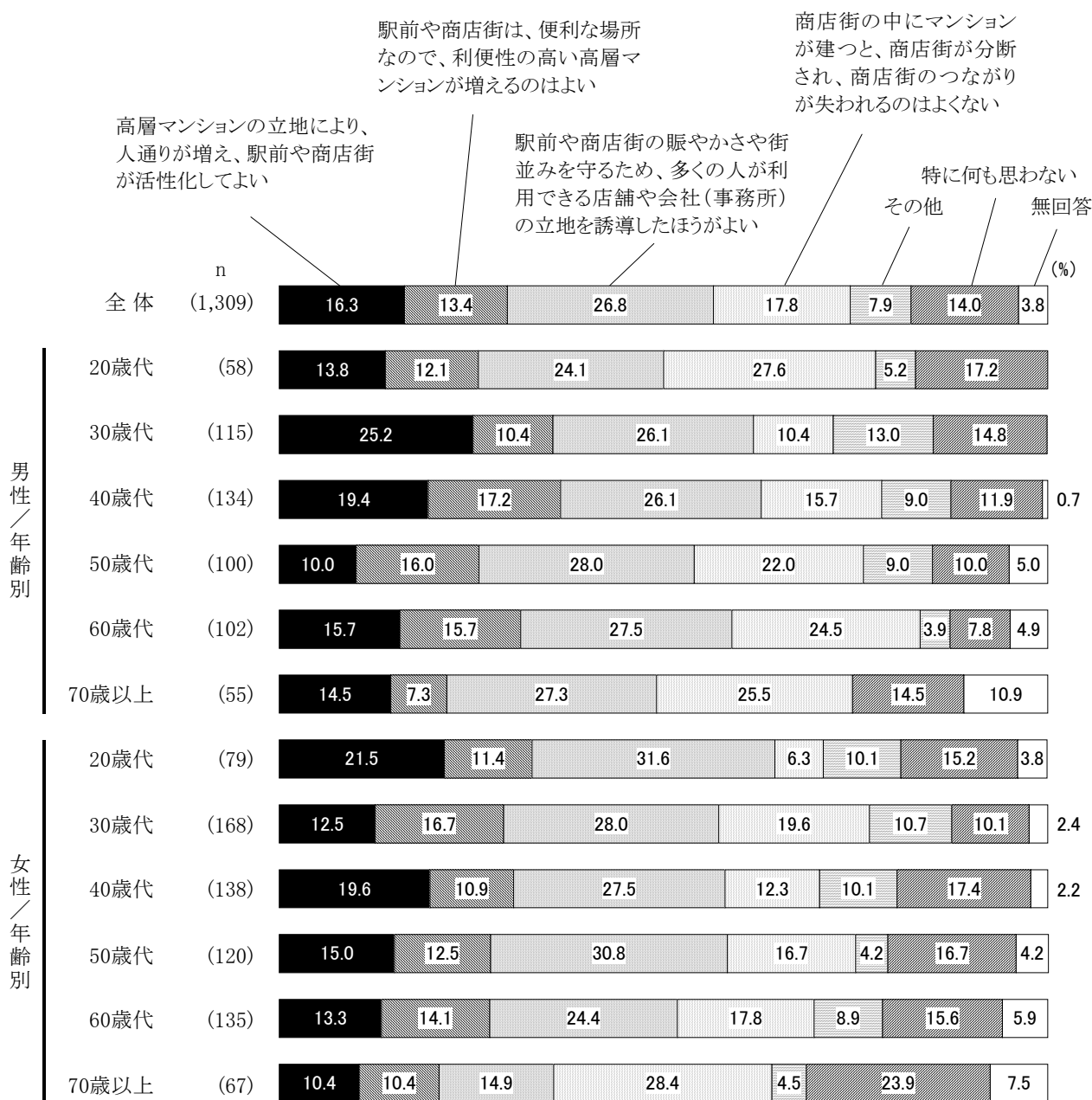
こうした駅前や商店街などの街並みについて、どう思いますか。（○は1つ）

図表 8-8 駅前や商店街などの街並みについての意見



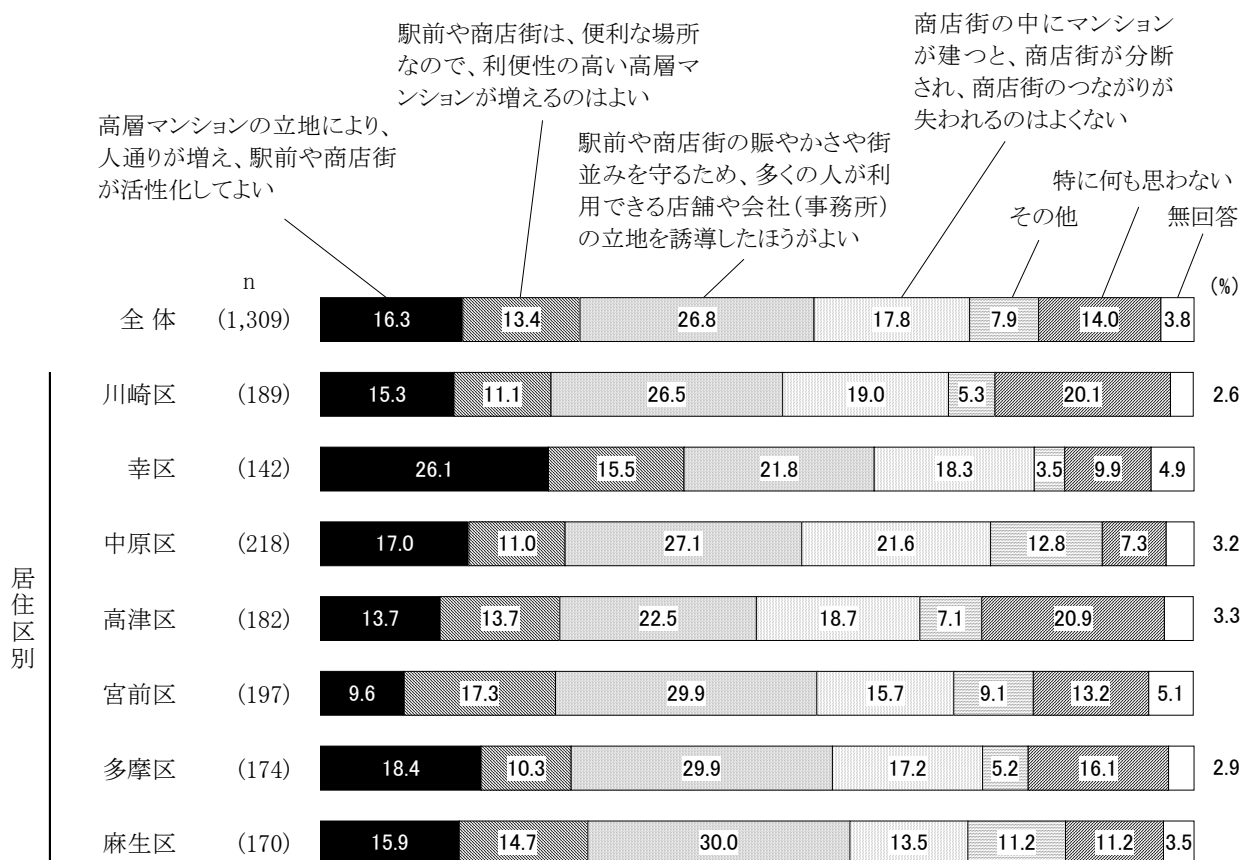
駅前や商店街などの街並みについての意見は、「駅前や商店街の賑やかさや街並みを守るため、多くの人が利用できる店舗や会社（事務所）の立地を誘導したほうがよい」が26.8%で最も多くなっている。以下「商店街の中にマンションが建つと、商店街が分断され、商店街のつながりが失われるのはよくない」（17.8%）、「高層マンションの立地により、人通りが増え、駅前や商店街が活性化してよい」（16.3%）、「駅前や商店街は、便利な場所なので、利便性の高い高層マンションが増えるのはよい」（13.4%）と続いている。（図表 8-8）

図表 8－9 駅前や商店街などの街並みについての意見 (性／年齢別)



性／年齢別では、「駅前や商店街の賑やかさや街並みを守るため、多くの人が利用できる店舗や会社(事務所)の立地を誘導したほうがよい」は、男性では、いずれの年齢層でも2割台半ば～2割台後半となっている。女性では、20歳代と50歳代が3割台前半となっている。「商店街の中にマンションが建つと、商店街が分断され、商店街のつながりが失われるのはよくない」は、男性の20歳代、女性の70歳以上が2割台後半となっている。「高層マンションの立地により、人通りが増え、駅前や商店街が活性化してよい」は、男性の30歳代、女性の20歳代が2割台前半～2割台半ばで多くなっている。(図表8－9)

図表 8-10 駅前や商店街などの街並みについての意見 (居住区別)



居住区別では、「駅前や商店街の賑やかさや街並みを守るため、多くの人が利用できる店舗や会社(事務所)の立地を誘導したほうがよい」は、いずれの居住区でも2割台前半～3割となっている。「商店街の中にマンションが建つと、商店街が分断され、商店街のつながりが失われるのはよくない」は、中原区が2割台前半で多くなっている。「高層マンションの立地により、人通りが増え、駅前や商店街が活性化してよい」は、幸区が2割台半ばで最も多く、宮前区が約1割で最も少なくなっている。(図表 8-10)

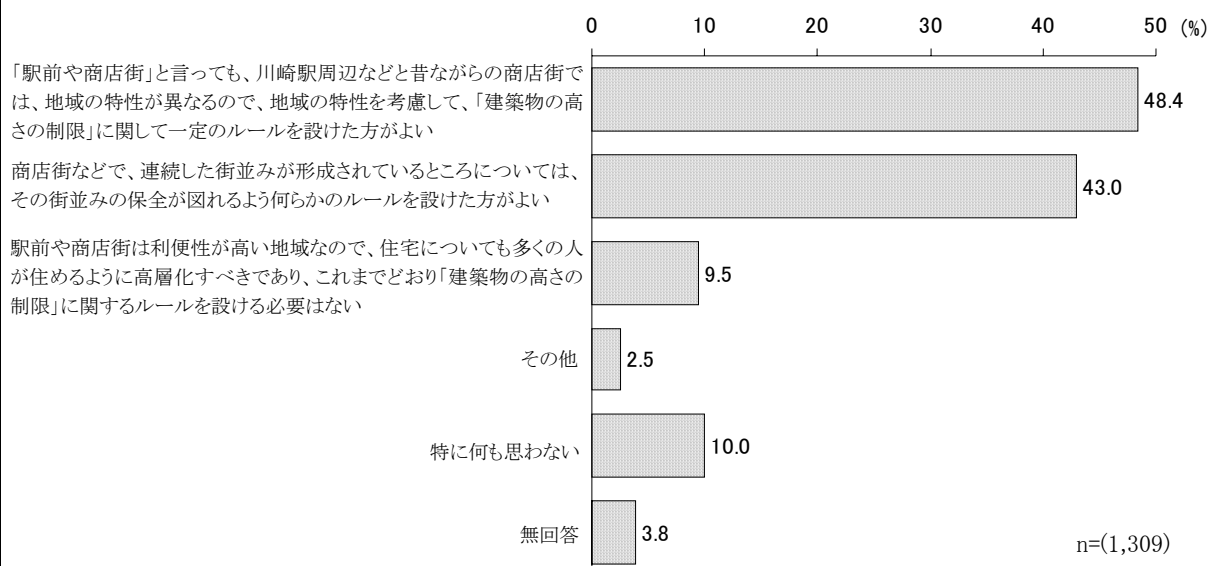
8-5 「商業地域」や「近隣商業地域」に高度地区を指定することについて

- ◎ 『駅前や商店街』と言っても、川崎駅周辺などと昔ながらの商店街では、地域の特性が異なるので、地域の特性を考慮して、「建築物の高さの制限」に関して一定のルールを設けた方がよい」が48.4%で最も多い

問 31 駅前や商店街に高層マンションの立地が増えることによって、商業地域などの街並みが変わってきますが、「商業地域」や「近隣商業地域」に、高度地区（建築物の高さの制限）の指定をすることなどについて、どう思いますか。

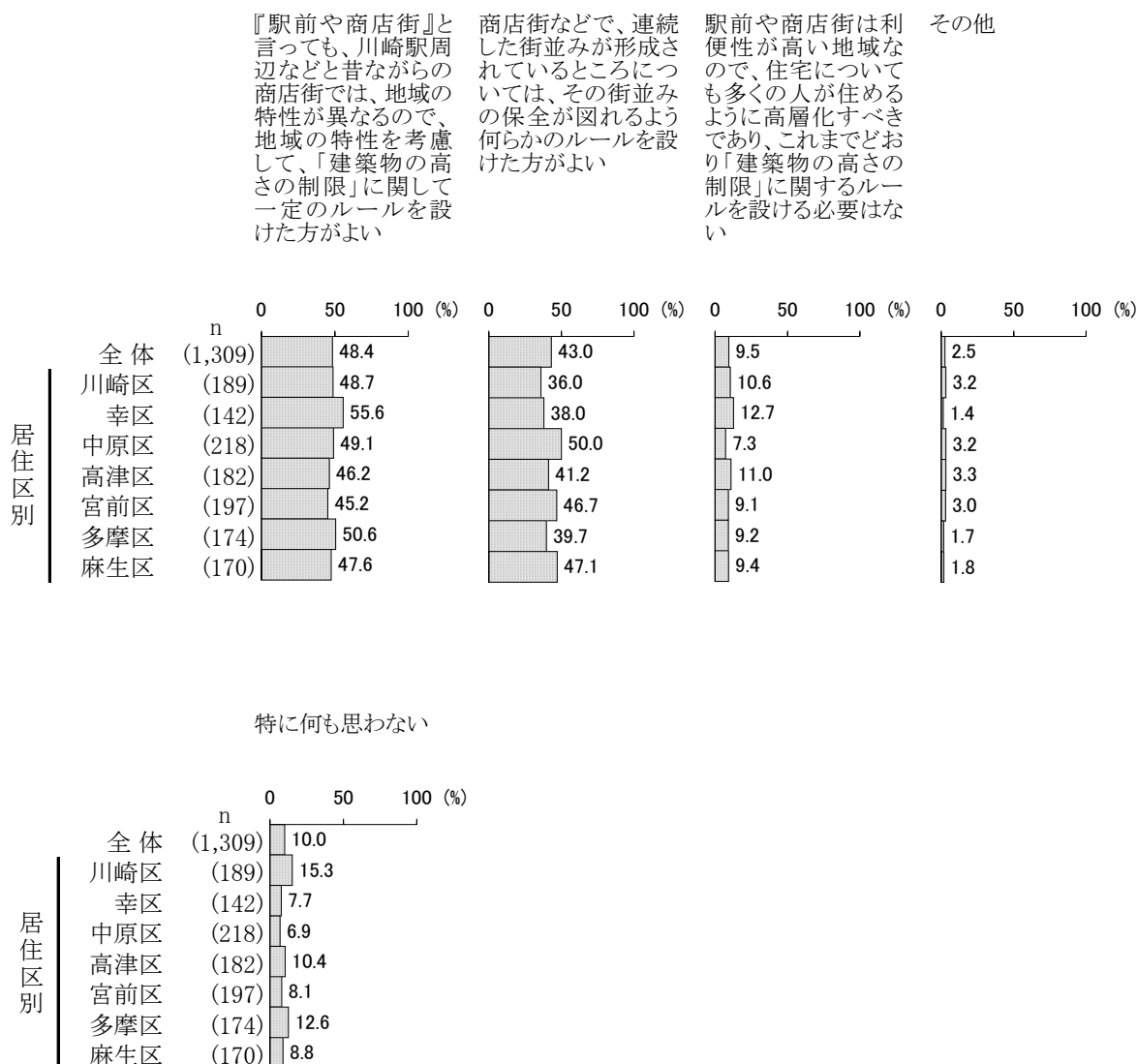
（あてはまるものすべてに○）

図表 8-11 「商業地域」や「近隣商業地域」に高度地区を指定することについて



『商業地域』や『近隣商業地域』に高度地区を指定することについて、『駅前や商店街』と言っても、川崎駅周辺などと昔ながらの商店街では、地域の特性が異なるので、地域の特性を考慮して、「建築物の高さの制限」に関して一定のルールを設けた方がよい」が48.4%で最も多くなっている。以下「商店街などで、連続した街並みが形成されているところについては、その街並みの保全が図れるよう何らかのルールを設けた方がよい」（43.0%）、「駅前や商店街は利便性が高い地域なので、住宅についても多くの人が住めるように高層化すべきであり、これまでどおり「建築物の高さの制限」に関するルールを設ける必要はない」（9.5%）と続いている。（図表8-11）

図表 8-12 駅前や商店街などの街並みについて (居住区別)



居住区別では、「『駅前や商店街』と言っても、川崎駅周辺などと昔ながらの商店街では、地域の特性が異なるので、地域の特性を考慮して、「建築物の高さの制限」に関して一定のルールを設けた方がよい」は、概ね市全体と同傾向となっているが、幸区では5割台半ばとなっている。「商店街などで、連続した街並みが形成されているところについては、その街並みの保全が図れるよう何らかのルールを設けた方がよい」は、中原区が5割となっている。(図表 8-12)

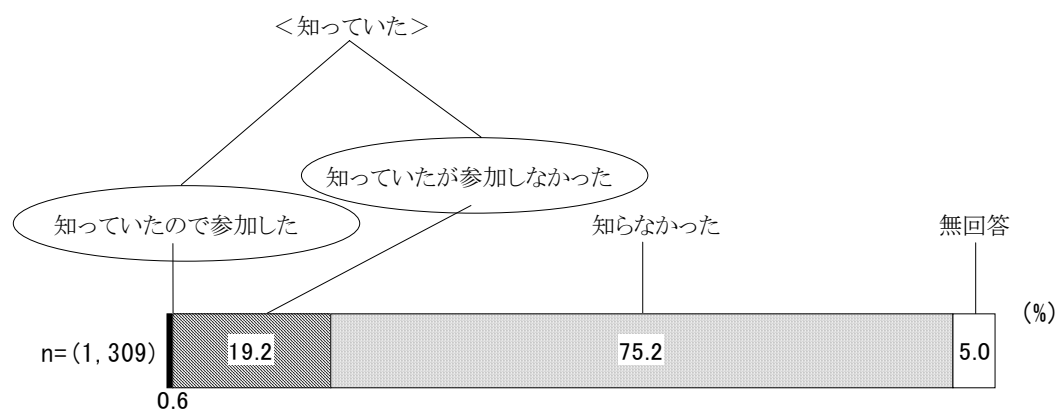
9 タウンミーティングについて

9-1 タウンミーティングの開催の認知状況及び参加の有無

◎ 「知っていた」は 19.8%

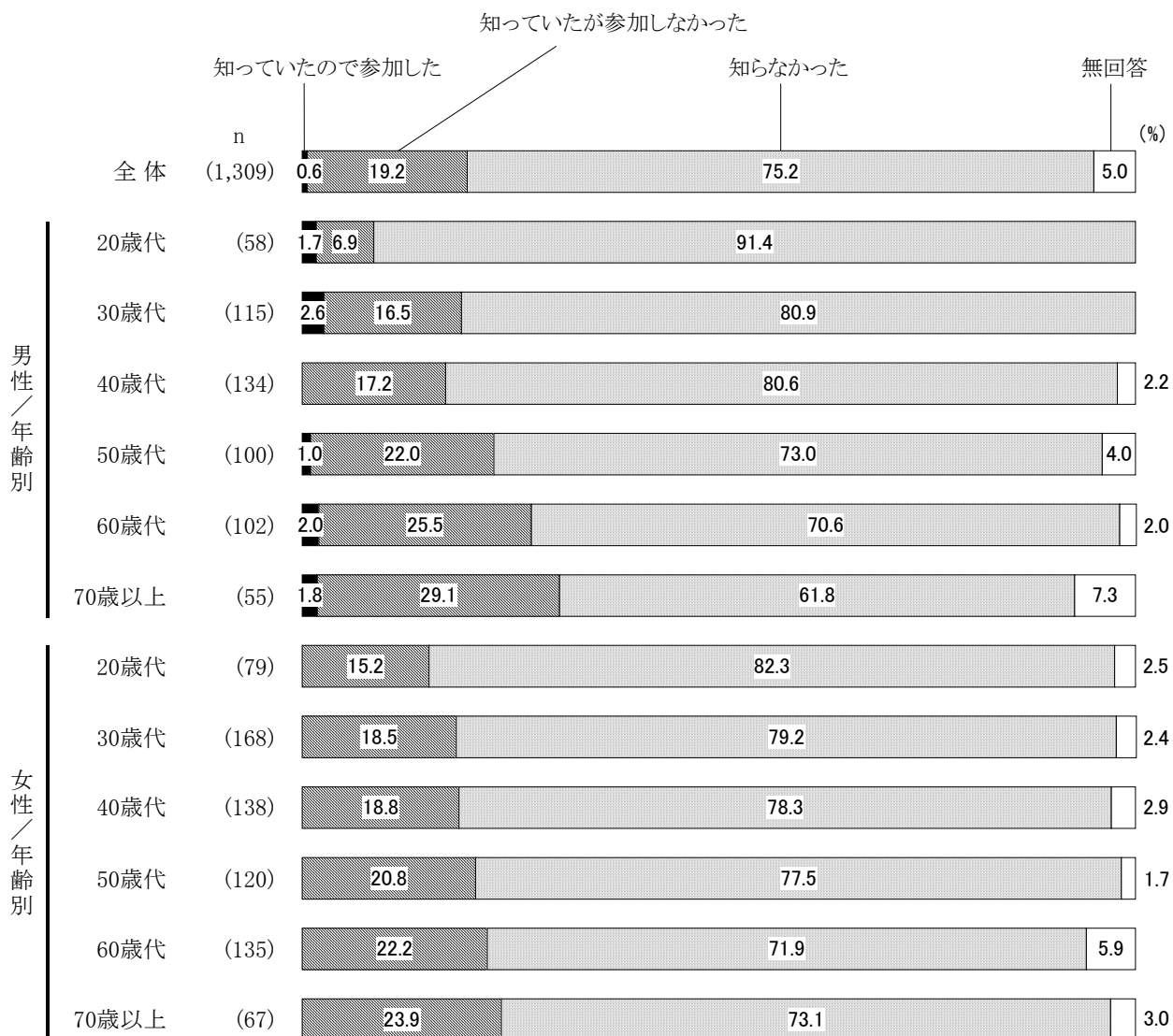
問 32 タウンミーティングの開催を知っていましたか。また、参加しましたか。
(○は1つ)

図表 9-1 タウンミーティングの開催の認知状況及び参加の有無



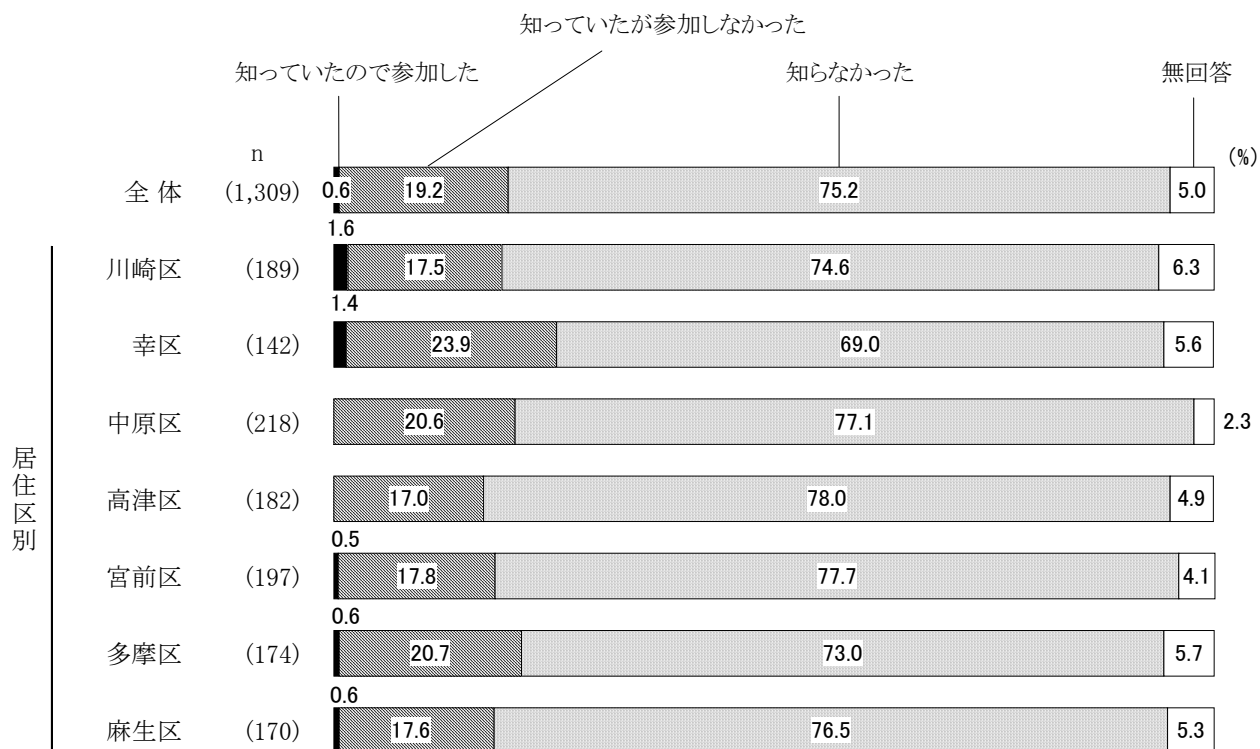
タウンミーティングの開催の認知状況及び参加の有無は、「知っていたので参加した」が 0.6% 「知っていたが参加しなかった」は 19.2%で、あわせた<知っていた>は 19.8%となっている。一方、「知らなかった」は 75.2%となっている。(図表 9-1)

図表 9-2 タウンミーティングの開催の認知状況及び参加の有無 (性／年齢別)



性／年齢別では、＜知っていた＞は、男性では、70歳以上が約3割で多くなっている。女性では、30歳代以上で2割前後と市全体と同傾向となっている。一方、「知らなかった」は、男性の20歳代が9割台前半で多くなっている。(図表9-2)

図表 9－3 タウンミーティングの開催の認知状況及び参加の有無 (居住区別)



居住区別では、＜知っていた＞は、幸区、中原区、多摩区で2割台前半となっている。一方、「知らなかった」は、概ね7割台となっている。(図表 9－3)

9-2 タウンミーティング開催情報の入手先

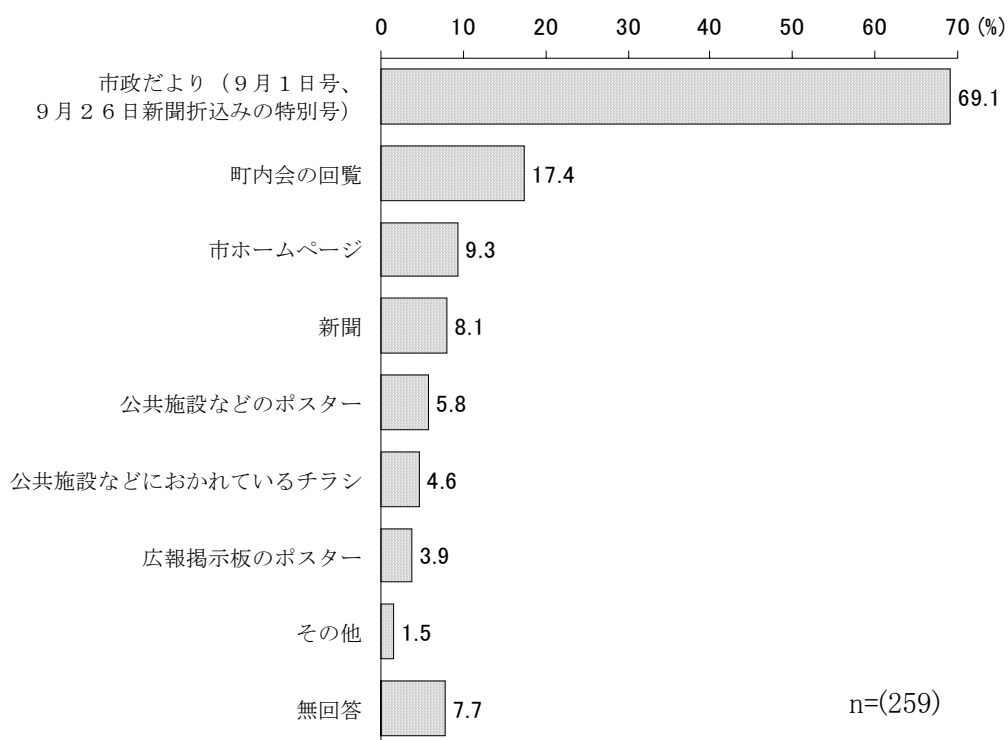
◎ 市政だより（9月1日号、9月26日新聞折込みの特別号）」が69.1%

（問32で、タウンミーティングの開催について「1. 知っていたので参加した」、「2. 知っていたが参加しなかった」のいずれかに答えた方にうかがいます。）

問32-（1） タウンミーティングの開催を何で知りましたか。

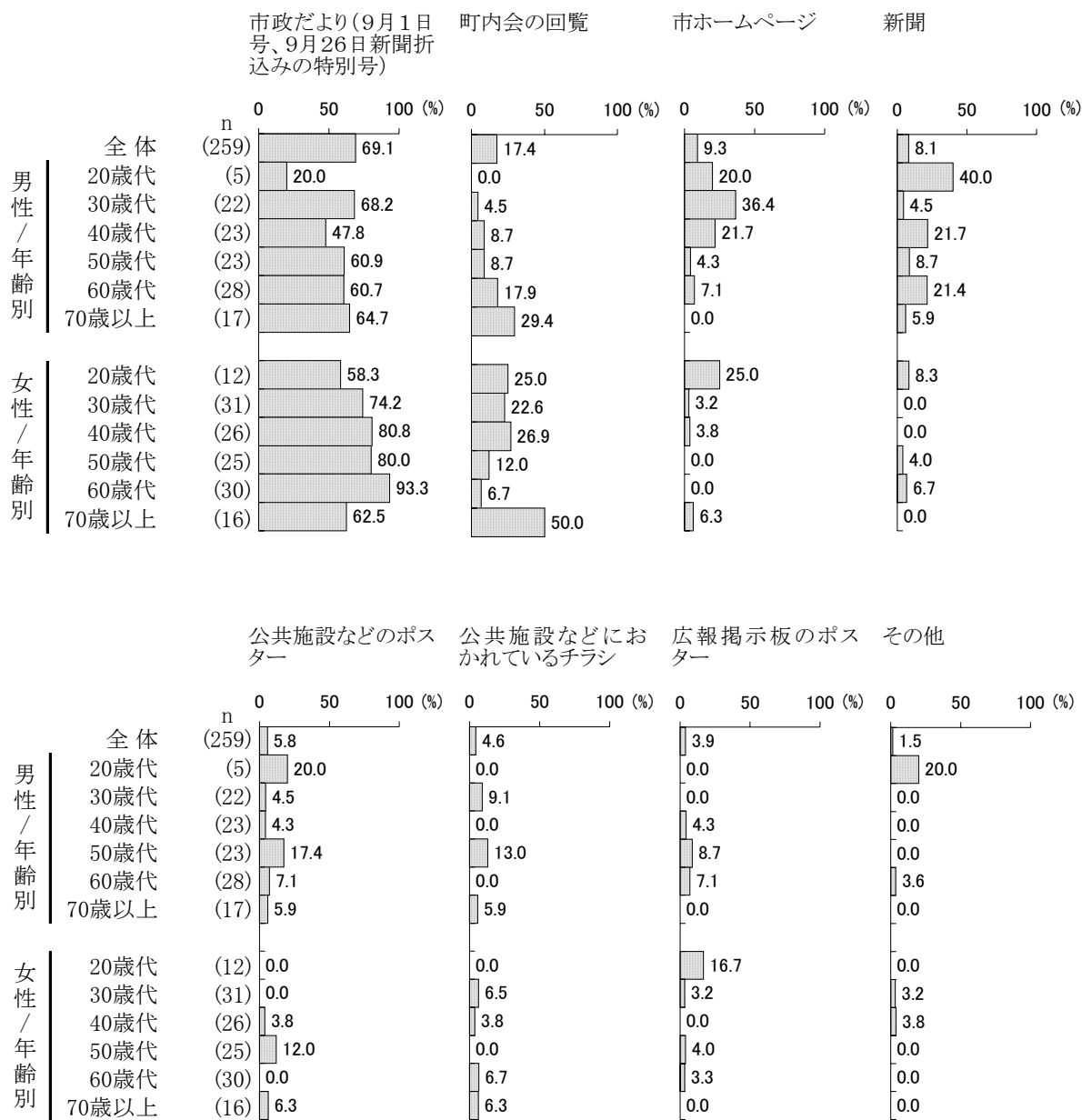
（あてはまるものすべてに○）

図表9-4 タウンミーティング開催情報の入手先



タウンミーティング開催情報の入手先は、「市政だより（9月1日号、9月26日新聞折込みの特別号）」が69.1%で最も多くなっている。次いで、「町内会の回覧」が17.4%が続いている。他の項目は1割未満となっている。（図表9-4）

図表9-5 タウンミーティング開催情報の入手先 (性/年齢別)



※性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表9-5)

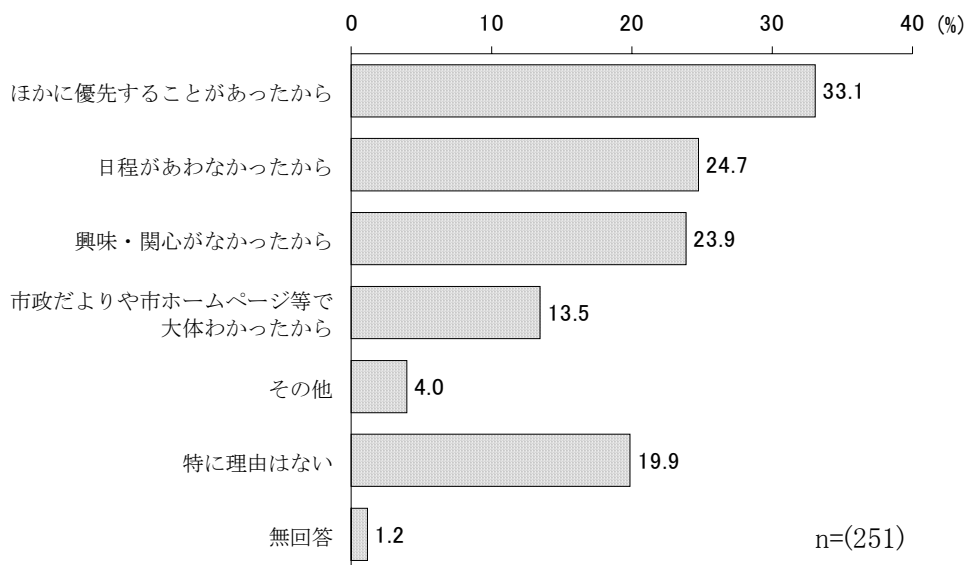
9-3 タウンミーティングに参加しなかった理由

◎ 「ほかに優先することがあったから」が33.1%

(問32で、タウンミーティングの開催について「2. 知っていたが参加しなかった」と答えた方にうかがいます。)

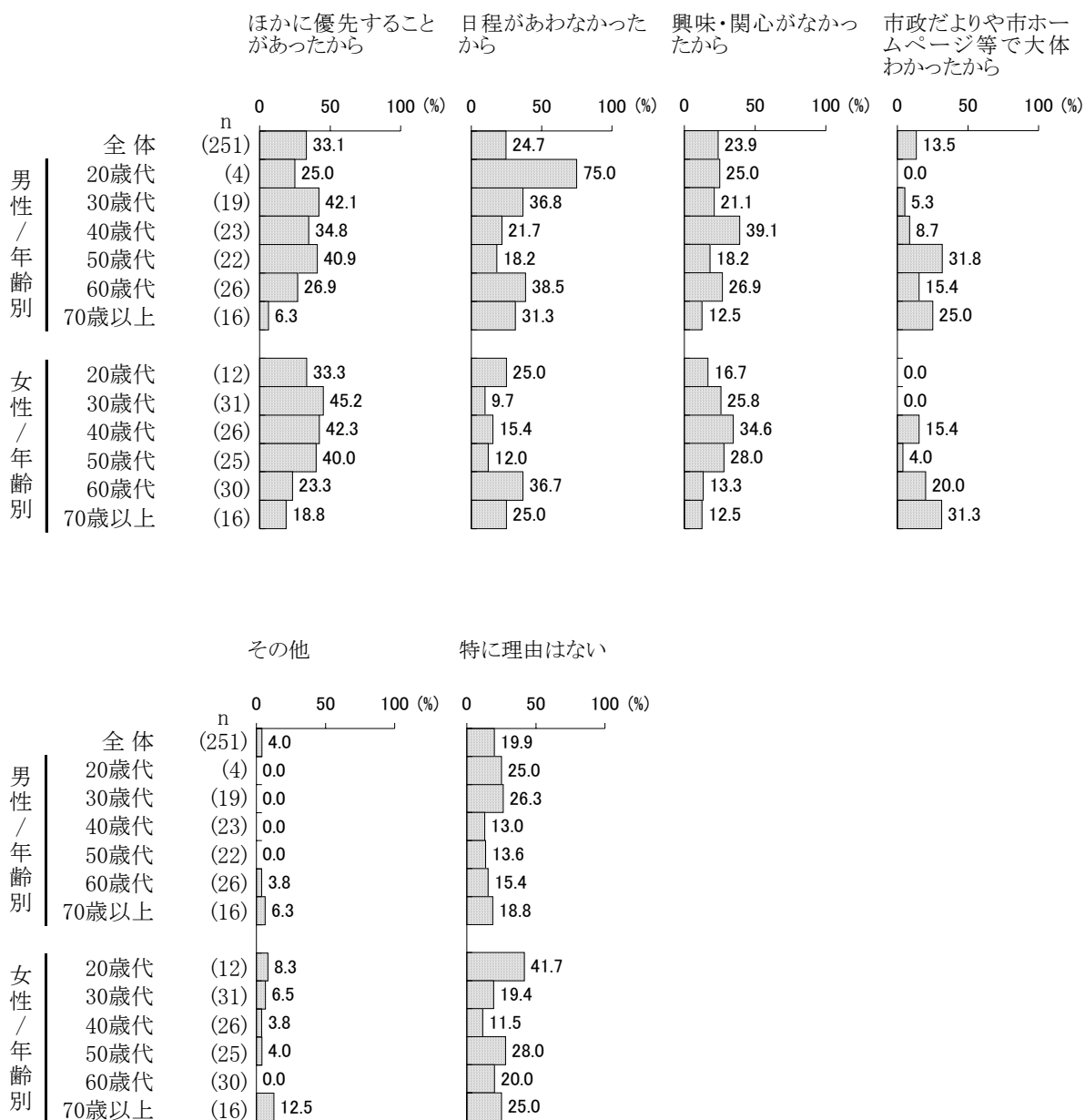
問32-(2) 参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表9-6 タウンミーティングに参加しなかった理由



タウンミーティングに参加しなかった理由は、「ほかに優先することがあったから」が33.1%で最も多くなっている。以下「日程があわなかったから」(24.7%)、「興味・関心がなかったから」(23.9%)、「市政だよりや市ホームページ等で大体わかったから」(13.5%)と続いている。(図表9-6)

図表 9-7 タウンミーティングに参加しなかった理由 (性／年齢別)



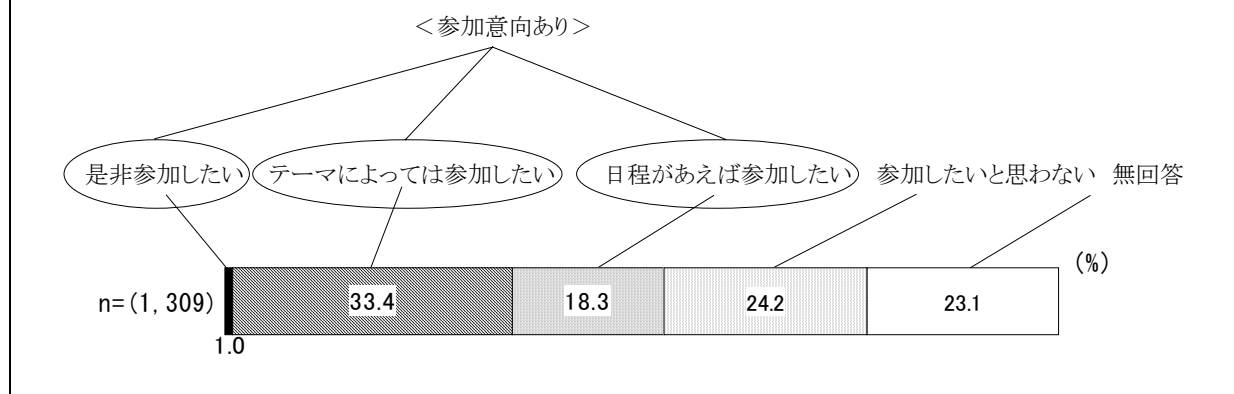
※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 9-7)

9-4 タウンミーティングへの参加意向

◎ <参加意向あり>は52.7%

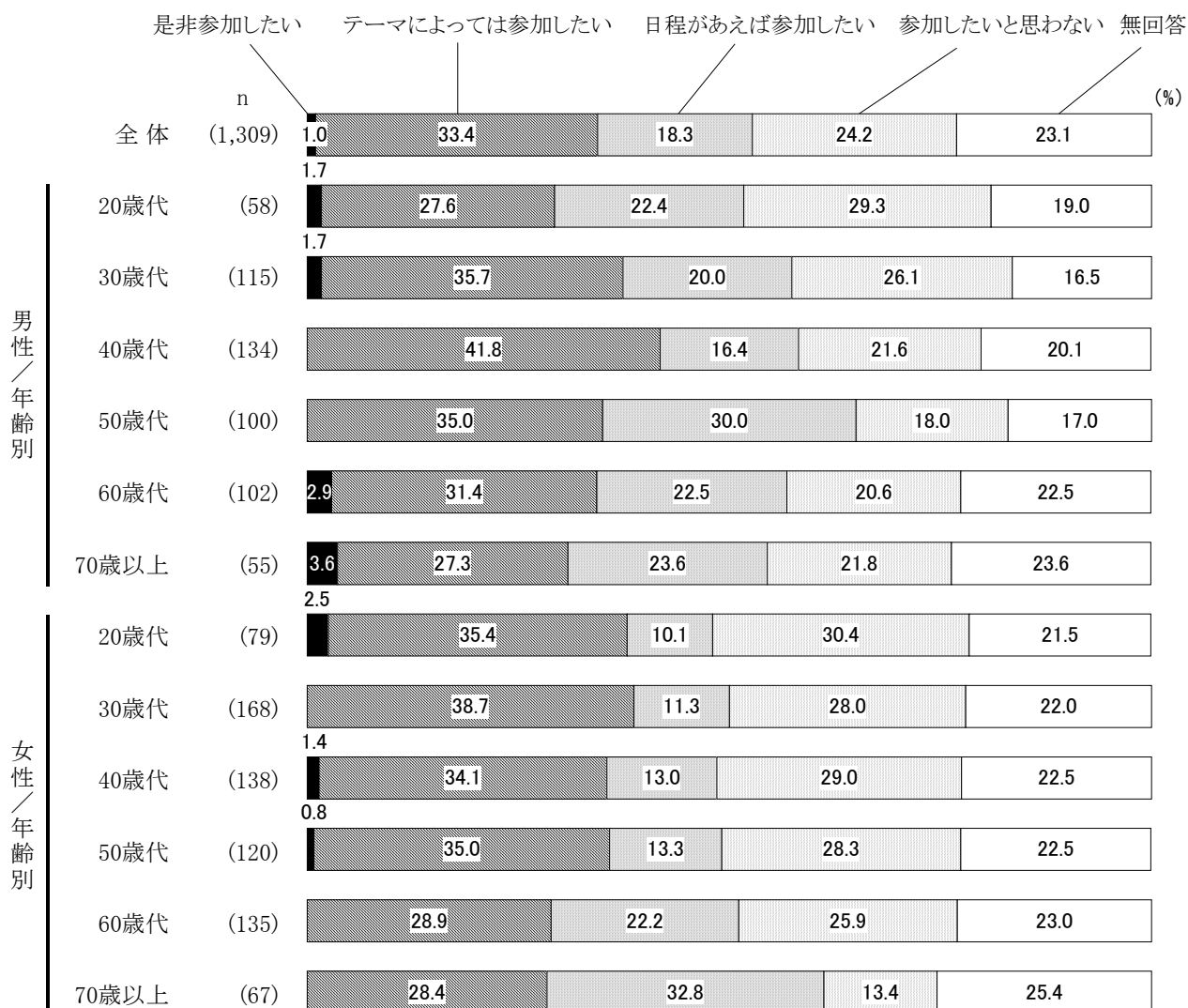
問 33 今後、タウンミーティングに参加したいと思いますか。(○は1つ)

図表9-8 タウンミーティングへの参加意向



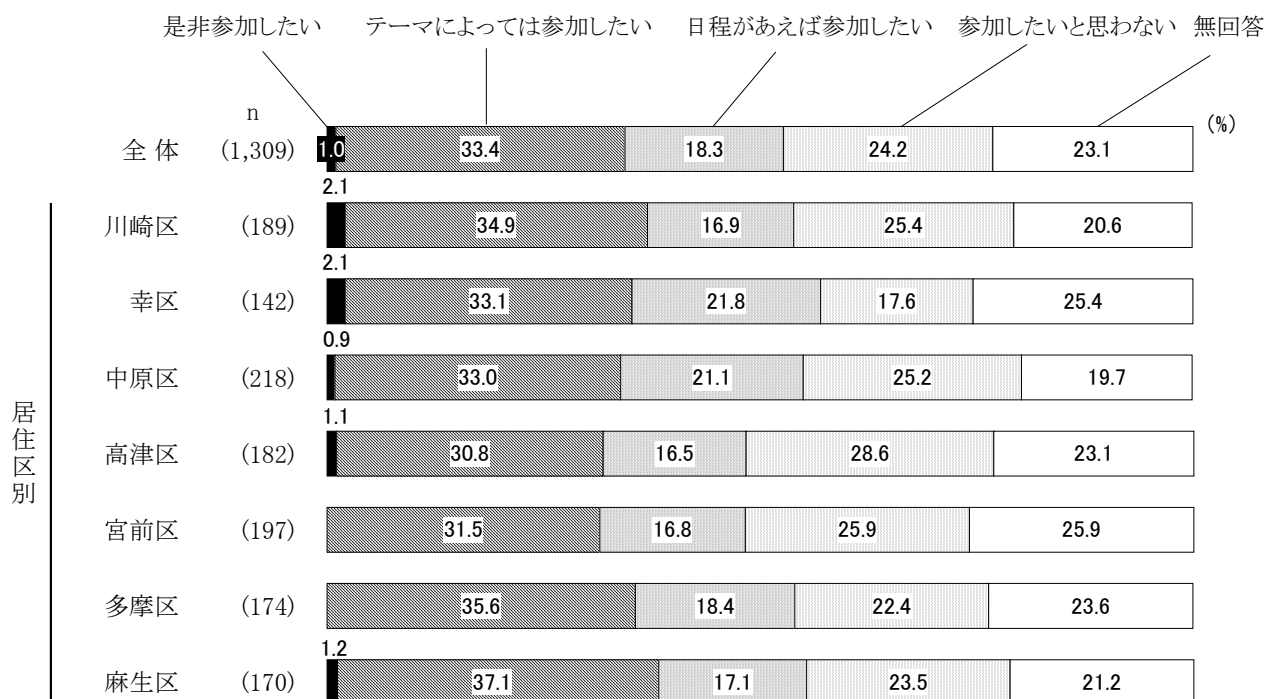
タウンミーティングへ「是非参加したい」(1.0%)と「テーマによっては参加したい」(33.4%)、「日程があれば参加したい」(18.3%)をあわせた<参加意向あり>は52.7%となっている。一方、「参加したいと思わない」は24.2%となっている。(図表9-8)

図表 9-9 タウンミーティングへの参加意向 (性/年齢別)



性/年齢別では、＜参加意向あり＞は、男性の50歳代と女性の70歳以上が6割台となっている。一方、「参加したいと思わない」は、男女ともに20歳代が約3割で最も多くなっている。(図表9-9)

図表 9-10 タウンミーティングへの参加意向 (居住区別)



居住区別では、＜参加意向あり＞は、4割台後半～5割台となっており、特に幸区は5割台後半となっている。(図表 9-10)